科目名	動物の健康管理Ⅰ	必修選択	選択	年次	1	担当教員	横山 昌美
学科・コース	エコ・コミュニケーション科2年制（昼二）	授業形態	講義	総時間（単位）	30 1		
教員の略歴	愛玩動物看護師　複数の動物病院にて勤務経験あり						
授業の学習内容	犬の身体の仕組みや健康管理を学び、犬が実際に動物病院で診察や治療を受ける際、犬・飼い主・動物病院スタッフが安全に適切な処置が行えるよう、どんなトレーニングが必要でどのように飼い主に伝えるかを考えるスキルを習得します。						
到達目標	①犬の身体の仕組みや健康について学ぶ ②動物病院で診察、治療を受けるにはどんなトレーニングが必要かを学ぶ ③犬の状態変化に気付ける観察力を身に付ける						
評価方法と基準	1）定期試験　50% 2）出席率　25% 3）授業態度　25%						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習　時間外学習(学習課題)
1	4月17日	講義＋演習	犬の扱い方について知識を習得する	授業ノートの復習
2	4月24日	講義＋演習	バイタルサインについて知識を習得する	授業ノートの復習
3	5月8日	講義＋演習	衛生管理と医材について知識を習得する	授業ノートの復習
4	5月15日	講義＋演習	グルーミングについて知識を習得する	授業ノートの復習
5	5月22日	講義＋演習	食事について知識を習得する	授業ノートの復習
6	6月5日	講義＋演習	歯磨きについて知識を習得する	授業ノートの復習
7	6月12日	講義＋演習	排尿について知識を習得する	授業ノートの復習
8	6月19日	講義＋演習	排便について知識を習得する	授業ノートの復習
9	6月26日	講義＋演習	嘔吐について知識を習得する	授業ノートの復習
10	7月3日	講義＋演習	投薬について知識を習得する	授業ノートの復習
11	7月10日	講義＋演習	フィラリア・ノミ・ダニについて知識を習得する	授業ノートの復習
12	7月17日	講義＋演習	嘔吐について知識を習得する	授業ノートの復習
13	8月28日	講義	試験前の復習	試験範囲の復習
14	9月4日	講義	筆記試験	試験の復習
15	9月11日	講義	試験問題の解説を通してこれまでの授業を振り返る	解説後の復習
準備学習　時間外学習			授業ノートを整理、復習し、新しい言葉は調べる	

【使用教科書・教材・参考書】 筆記用具・ノート

科目名	動物の健康管理Ⅱ	必修選択	選択	年次	1	担当教員	横山 昌美
学科・コース	エコ・コミュニケーション科2年制（昼二）	授業形態	講義	総時間（単位）	30 1		
教員の略歴	愛玩動物看護師　複数の動物病院にて勤務経験あり						
授業の学習内容	犬の身体の仕組みや健康管理を学び、犬が実際に動物病院で診察や治療を受ける際、犬・飼い主・動物病院スタッフが安全に適切な処置が行えるよう、どんなトレーニングが必要でどのように飼い主に伝えるかを考えるスキルを習得します。						
到達目標	①犬の身体の仕組みや健康について学ぶ ②動物病院で診察、治療を受けるにはどんなトレーニングが必要かを学ぶ ③犬の状態変化に気付ける観察力を身に付ける						
評価方法と基準	1）定期試験　50% 2）出席率　25% 3）授業態度　25%						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習　時間外学習(学習課題)
1	10月2日	講義＋演習	皮膚疾患の観察ポイントを学ぶ	授業ノートの復習
2	10月9日	講義＋演習	心疾患の観察ポイントを学ぶ	授業ノートの復習
3	10月16日	講義＋演習	呼吸器疾患の観察ポイントを学ぶ	授業ノートの復習
4	10月23日	講義＋演習	消化器疾患の観察ポイントを学ぶ	授業ノートの復習
5	10月30日	講義＋演習	泌尿器疾患の観察ポイントを学ぶ	授業ノートの復習
6	11月6日	講義＋演習	耳と眼の疾患の観察ポイントを学ぶ	授業ノートの復習
7	11月13日	講義＋演習	口腔疾患の観察ポイントを学ぶ	授業ノートの復習
8	11月20日	講義＋演習	生殖器疾患の観察ポイントを学ぶ	授業ノートの復習
9	11月27日	講義＋演習	神経疾患の観察ポイントを学ぶ	授業ノートの復習
10	12月4日	講義＋演習	運動器疾患の観察ポイントを学ぶ	授業ノートの復習
11	12月11日	講義	試験前の復習	試験範囲の復習
12	12月18日	講義	筆記試験	試験の復習
13	1月15日	講義	試験問題の解説を通してこれまでの授業を振り返る	解説後の復習
14	1月22日	講義＋演習	適正飼養（避妊・去勢）について知識を習得する	授業ノートの復習
15	1月29日	講義＋演習	1年間の総復習	授業ノートの復習
準備学習　時間外学習			授業ノートを整理、復習し、新しい言葉は調べる	

【使用教科書・教材・参考書】 筆記用具・ノート

科目名	飼養管理Ⅰ	必修選択	必須	年次	1	担当教員	本村伸子
		授業形態	講義	総時間（単位）	30 1		
学科・ｺｰｽ	エコ・コミュニケーション科2年制（昼二）						
教員の略歴	獣医師免許を持ち、ナチュラルケアのアドバイザーとして犬の病気予防に関するセミナーを開催している講師が実施						
授業の学習内容	近年、ペット業界においても「食育」が注目されている。市販のペットフードの商品の幅も広がってきていて、専門的な知識が求められる時代になってきている。犬たちの健康を考える上でも、個々の犬たちに合ったフードを選ぶ目を養ってほしいです。さらに、手作り食についてもオーナーに対して適切に指導が出来るようになってほしいです。						
到達目標	・市場で販売されているペットフードを適正に見極めて、良いフードを個体に応じて選べるようになる ・犬のオーナーに対して食事の指導ができるようになる ・体調の変化やライフステージに応じた食事を検討して、提案できるようになる						
評価方法と基準	1）定期試験70%　2）出席率20%　3）授業態度10%						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習　時間外学習(学習課題)
1		講義	食事の大切さを学び、自分の生活を見直すことが出来る	学生自身の普段の生活と食事について考える
2		講義	ペットフードの選び方①：学校犬が食べているドッグフードの内容を判断できる	
3		講義	ペットフードの選び方②：酸化防止剤の意味を理解する	ペットショップに行って、どのようなフードが発売されているかを調査する
4		講義	ペットフードの選び方③：様々な添加物について理解する	
5		講義	ペットフードの選び方④：原材料の問題点について理解する	担当している犬たちの食事を調査
6		講義	ペットフードの選び方⑤：手作り食との併用；消化性白血球増加症	
7		講義	ペットフードの選び方⑥：手作り食との併用；移行方法	
8		講義	ペットフードの選び方⑦：グレインフリーとは・拡張型心筋症の問題	担当している犬たちの食事の問題点を考える
9		講義	ペットフードの選び方⑧：グレインフリーとは・拡張型心筋症の問題	
10		講義	手作りご飯の基本①：骨や肉を生で与える場合の注意点を理解する	
11		講義	手作りご飯の基本②：穀類を与える場合の注意点を理解する	
12		講義	手作りご飯の基本③：動物性食品の特徴を理解する	
13		講義	手作りご飯の基本④：動物性食品の特徴を理解する	
14		**試験**	筆記試験	試験範囲内用をきちんとまとめる
15		**講義**	テスト結果の振り返り	試験の結果を振り返り間違った箇所を復習
準備学習　時間外学習				

【使用教科書・教材・参考書】「もう迷わないペットの健康ごはん」

科目名	飼養管理Ⅱ	必修選択	必須	年次	1	担当教員	本村伸子
		授業形態	講義	総時間（単位）	30 1		
学科・コース	エコ・コミュニケーション科2年制（昼二）						
教員の略歴	獣医師免許を持ち、ナチュラルケアのアドバイザーとして犬の病気予防に関するセミナーを開催している講師が実施						
授業の学習内容	近年、ペット業界においても「食育」が注目されている。市販のペットフードの商品の幅も広がってきていて、専門的な知識が求められる時代になってきている。犬たちの健康を考える上でも、個々の犬たちに合ったフードを選ぶ目を養ってほしいです。さらに、手作り食についてもオーナーに対して適切に指導が出来るようになってほしいです。						
到達目標	・肉食動物である猫の食事についても栄養素を考慮しながら考えることが出来るようになる ・シニア期の体調管理が出来るようになる ・犬種ごとになりやすい疾患を理解して、疾患に合わせた食事の指導が出来るようになる						
評価方法と基準	1）定期試験70%　2）出席率20%　3）授業態度10%						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習　時間外学習(学習課題)
1		講義	手作りご飯の基本⑤：植物性食品の特徴を理解する	担当している犬たちの問題点を考える
2		講義	手作り食の基本⑥：植物性食品の特徴を理解する	
3		講義	犬と猫の栄養素の違い①：犬と猫の体の構造の違いについて理解する	身近にいる犬や猫たちの行動を観察して、犬と猫の違いを考える
4		講義	犬と猫の栄養素の違い②：犬と猫の栄養素の違いについて理解する	
5		講義	猫の食事管理①：肉食動物である猫の食事について学ぶ	
6		講義	猫の食事管理②：肉食動物である猫の食事について学ぶ	
7		講義	シニア期の健康管理①：老齢動物の肉体的な変化について理解する	シニア犬を飼育する場合の問題点について考える
8		講義	シニア期の健康管理②：老齢動物の食事管理について理解する	
9		講義	犬種ごとの食事の注意点①：癌になりやすい犬種	担当している犬たちの犬種と疾患についてを考える
10		講義	犬種ごとの食事の注意点②：癌になりやすい犬種	
11		講義	犬種ごとの食事の注意点③：関節疾患になりやすい犬種	
12		講義	犬種ごとの食事の注意点④：尿路系疾患になりやすい犬種	
13		講義	犬種ごとの食事の注意点⑤：心疾患になりやすい犬種	
14		**試験**	筆記試験	試験範囲内用をきちんとまとめる
15		**講義**	テスト結果の振り返り	試験の結果を振り返り間違った箇所を復習
準備学習　時間外学習				

【使用教科書・教材・参考書】「もう迷わないペットの健康ごはん」

科目名	爬虫両生類学Ⅰ	必修選択	選択	年次	1	担当教員	菅野宏文
		授業形態	講義	総時間（単位）	30 1		
学科・コース	エコ・コミュニケーション科 2年制 昼二						
教員の略歴	日本蛇族学術研究所研究員、伊豆アンディランド学芸員、現在は執筆活動を行う。						
授業の学習内容	野生動物及び飼養動物に関する法令(外来生物法、文化財保護法、ワシントン条約及び種の保存法、動物愛護法等を業界人の常識として覚えなければならない。) 爬虫類・両生類の飼育及び取扱い方等を学び、水族館・ショップ等の仕事に就いた際実践できる。						
到達目標	業界(動物園・ペットショップ等)のニーズに応えられるレベルまで動物の飼育・管理能力を身に付け、飼養動物の異常の早期発見及び速やかに対処できる能力を身に付ける。また、ショップなどの接客に必要な説明及び解説ができる力を培う。						
評価方法と基準	出席率・試験成績により判断する。 出席率70%以上の学生には2点、80%以上の学生には3点、90%以上の学生には5点、上記の点数を筆記試験に加点する。 筆記試験評価　GPA〔A 100～90、B 89～80、C 79～70、D 69～60、F 59～0(不合格)となる。〕 再試験は公欠が認められた者のみ対応する。						

授業計画・内容

回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習　時間外学習(学習課題)
1	4/17	講義	外来生物法について述べる事ができる。	特定外来生物を1種選び詳しく調べる。
2	4/24	講義	ワシントン条約について述べる事ができる。	飼育室の動物で条約に関係している種をカテゴリーごとに調べる。
3	5/8	講義	種の保存法について述べる事ができる。	登録票について説明できる様に練習する。
4	5/15	講義	動物の愛護及び管理に関する法律	動物販売時説明書を使用しながら説明練習。
5	5/22	講義	爬虫類の取り扱い時の考慮。爬虫類の保定法(物理的・化学的)を学び実践に役立てる。	動物を取り扱う必要性を予め考えておく。
6	5/29	講義	爬虫類総論(形態、生態、生理、生態等)	本日の講義の復習。
7	6/5	講義・演習	有鱗目トカゲ亜目の飼育（管理、取り扱い）	日本産トカゲを1種選び調べる。
8	6/12	講義・演習	有尾目ヘビ亜目の飼育（管理、取り扱い）	日本産ヘビを1種選び調べる。
9	6/19	講義・演習	有鱗目ヘビ亜目の飼育（管理、取り扱い）Ⅱ	日本産ヘビを1種選び調べる。
10	6/26	講義・演習	カメ目水棲ガメ類の飼育（管理・取り扱い）	日本産カメ類を1種選び調べる。
11	7/3	講義・演習	カメ目陸棲ガメ類の飼育（管理・取り扱い）	日本産カメ類を1種選び調べる。
12	7/10	講義・演習	両生類総論(形態、生態、生理等)	日本産両生類を1種選び調べる。
13	8/28	講義	両生・爬虫類の病(原因・症状・対処法)	飼育室の両生・爬虫類の健康状態を予めチェックする。
14	9/4	**試験**	期末試験・ペーパーテスト実施	試験に対する準備を行う
15	9/11	**講義**	試験解答および全過程の総括	理解がよくできていない項目を確認する。
準備学習　時間外学習			各自ノートを読み返しをし、復習に努める。講義の予習、下調べ学習を行う。	

【使用教科書・教材・参考書】
(参考書)滋慶教育科学研究所監修(2006)「動物の健康管理」(株式会社滋慶教育事業部)、菅野宏文著:「ミドリガメ・ゼニガメの医・食・住」、「リクガメの医・食・住」、「ニオイガメ・ドロガメの医・食・住」、(社)日本動物園・水族館協会「飼育ハンドブック・動物園編」Ⅲ

科目名	爬虫両生類学Ⅲ	必修選択	選択	年次	2	担当教員	富田京一
学科・コース	エコ・コミュニケーション科 2年制 昼二	授業形態	講義	総時間（単位）	30 1		
教員の略歴	肉食爬虫類研究所所属。爬虫両生類・恐竜の調査、教育普及活動に従事。						
授業の学習内容	水族館など主として海洋生物を取り扱う業界においても、生態系、生物多様性といった概念の普及に伴って、さまざまな動植物の展示や教育活動が行なわれるようになりました。かつては常に脇役に甘んじていた爬虫類や両生類に対する世間の関心や需要も非常に高まっています。水生生物や愛玩動物を取り扱う問屋、小売店においても、それは同様の傾向にあると考えられます。また、爬虫類・両生類は他の脊椎動物とも生物学上密接なつながりを持っており、たとえば魚類学を学ぶ際にそれを補完するものとして欠くべからざるものです。 時代のニーズに即した爬虫類・両生類に関する学問的な知識や飼育技術の習得は、今後ますます求められていくものと予想されるため、それに即応した教育を目指します。						
到達目標	爬虫類・両生類とはいかなる動物か、進化的な背景も含めて理解する。水族館・動物園でよく展示されていたり、一般に流通している種類についてひととおりの飼育がこなせるようになる。希少であったり、反対に外来生物として環境問題となっている、また国内外のネイチャーツアーなどで観察できる代表的な種類を識別できるようになる。およびまた、もし高校で生物を履修していない生徒でも、爬虫両生類関連の業界に就職した場合に困らないだけの基礎的な知識をつける。						
評価方法と基準	定期試験を基準としますが、出席・授業態度も重視します(定期試験80% 授業内での小テスト・レポート各10%)。						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習　時間外学習(学習課題)
1		講義	爬虫両生類とは何か(特に爬虫類)	一年時の内容について復習(レポート)
2		講義	飼育の基本(ケージ・保温・衛生面等)	授業初め、前回の内容について議論
3		講義	水生ガメの分類や高度な飼育法、保全	授業初め、前回の内容について議論
4		講義	爬虫両生類の餌学(栄養素と飼育法)	授業初め、前回の内容について議論
5		講義	陸生ガメの分類や高度な飼育法、保全	授業初め、前回の内容について議論
6		講義	ウミガメの保全活動と基本的な飼育法	授業初め、前回の内容について議論
7		講義	校外実習(あきる野市横沢入を予定)	授業初め、前回の内容について議論
8		講義	校外実習(あきる野市横沢入を予定)	授業初め、前回の内容について議論
9		講義	トカゲの総論と生態、地上生種の飼育	授業初め、前回の内容について議論
10		講義	樹上生トカゲの生態と高度な飼育法	授業初め、前回の内容について議論
11		講義	カメレオン・ヤモリ類の生態と飼育法	授業初め、前回の内容について議論
12		講義	オオトカゲ・ドクトカゲ・ワニの分類と飼育	授業初め、前回の内容について議論
13		講義	これまで習得した知識や技術の確認	授業初め、前回の内容について議論
14		試験		
15		振り返り	後期の学習内容に進むためのまとめ	後期に向けた予習(レポート)の指示
準備学習　時間外学習				

【使用教科書・教材・参考書】 適宜プリント等を用意します。回によってスライドやビデオ等の画像や、生体・骨格標本・液浸標本も使用。

科目名	爬虫両生類学Ⅳ	必修選択	選択	年次	2	担当教員	富田京一
学科・コース		授業形態	講義	総時間（単位）	30 1		
教員の略歴	肉食爬虫類研究所所属。爬虫両生類・恐竜の調査、教育普及活動に従事。						
授業の学習内容	水族館など主として海洋生物を取り扱う業界においても、生態系、生物多様性といった概念の普及に伴って、さまざまな動植物の展示や教育活動が行なわれるようになりました。かつては常に脇役に甘んじていた爬虫類や両生類に対する世間の関心や需要も非常に高まっています。水生生物や愛玩動物を取り扱う問屋、小売店においても、それは同様の傾向にあると考えられます。また、爬虫類・両生類は他の脊椎動物とも生物学上密接なつながりを持っており、たとえば魚類学を学ぶ際にそれを補完するものとして欠くべからざるものです。 時代のニーズに即した爬虫類・両生類に関する学問的な知識や飼育技術の習得は、今後ますます求められていくものと予想されるため、それに即応した教育を目指します。						
到達目標	爬虫類・両生類とはいかなる動物か、進化的な背景も含めて理解する。水族館・動物園でよく展示されていたり、一般に流通している種類についてひととおりの飼育がこなせるようになる。希少であったり、反対に外来生物として環境問題となっている、また国内外のネイチャーツアーなどで観察できる代表的な種類を識別できるようになる。およびまた、もし高校で生物を履修していない生徒でも、爬虫両生類関連の業界に就職した場合に困らないだけの基礎的な知識をつける。						
評価方法と基準	定期試験を基準としますが、出席・授業態度も重視します(定期試験80% 授業内での小テスト・レポート各10%)。						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習　時間外学習(学習課題)
1		講義	爬虫両生類とは何か(特に爬虫類)	一年時の内容について復習(レポート)
2		講義	飼育の基本(ケージ・保温・衛生面等)	授業初め、前回の内容について議論
3		講義	水生ガメの分類や高度な飼育法、保全	授業初め、前回の内容について議論
4		講義	爬虫両生類の餌学(栄養素と飼育法)	授業初め、前回の内容について議論
5		講義	陸生ガメの分類や高度な飼育法、保全	授業初め、前回の内容について議論
6		講義	ウミガメの保全活動と基本的な飼育法	授業初め、前回の内容について議論
7		講義	校外実習(あきる野市横沢入を予定)	授業初め、前回の内容について議論
8		講義	校外実習(あきる野市横沢入を予定)	授業初め、前回の内容について議論
9		講義	トカゲの総論と生態、地上生種の飼育	授業初め、前回の内容について議論
10		講義	樹上生トカゲの生態と高度な飼育法	授業初め、前回の内容について議論
11		講義	カメレオン・ヤモリ類の生態と飼育法	授業初め、前回の内容について議論
12		講義	オオトカゲ・ドクトカゲ・ワニの分類と飼育	授業初め、前回の内容について議論
13		講義	これまで習得した知識や技術の確認	授業初め、前回の内容について議論
14		試験		
15		振り返り	後期の学習内容に進むためのまとめ	後期に向けた予習(レポート)の指示
準備学習　時間外学習				

【使用教科書・教材・参考書】 適宜プリント等を用意します。回によってスライドやビデオ等の画像や、生体・骨格標本・液浸標本も使用。

科目名	疾病と予防Ⅰ	必修選択	選択	年次	2	担当教員	鎌田みゆき
学科・コース	エコ・コミュニケーション科2年制（昼二）	授業形態	講義	総時間（単位）	30 1		
教員の略歴	OMRCにてドルフィントレーナー、ネイチャーガイドとして勤務						
授業の学習内容	飼育現場において、“獣医師に必要とされる”および“獣医師の良きパートナーとして共に仕事ができる”スタッフは重宝される。 動物にとってより良い環境を創っていけるよう、当科目では専門書、資料画像、動画などを用いた講義を主軸に鯨類の基本的な体の構造と各臓器の生理と働きについて学び、経験談を交えてハズバンダリーでの採血の模倣や解剖における作業など、実践的な練習も行う。						
到達目標	・陸棲哺乳類とは異なる体の仕組みや臓器形態について説明することができる ・就職した際に現場で即戦力となるため、採血での針の刺し方や取り上げでの担当持ち場、解剖でのアシストを行うことができる						
評価方法と基準	定期テスト　60% 授業態度（あいさつ、返事、質問、取り組み姿勢）　40%						

授業計画・内容

回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習　時間外学習(学習課題)
1	4月18日	講義	ガイダンス 授業内容と目標を理解する	
2	4月25日	講義と演習	アニマルケアーの重要性の理解①取り上げにて役割別に動くことができるようになる	イルカぬいぐるみ
3	5月9日	講義	アニマルケアーの重要性の理解②ハズバンダリーについて説明することができる	
4	5月16日	講義	水族館における海獣類の検査の種類について学び、列挙することができる	
5	5月23日	講義	鯨類の骨格について詳細を学び、標本の作成方法にも触れる	全身骨格チェック用ワークシート
6	5月30日	講義と演習	舌・口腔・歯について理解し、飼育鯨類の口内チェックが実施できるようになる	口内チェック用ワークシート
7	6月13日	講義	消化器系（胃）について理解し、図説ができる	
8	6月20日	講義と演習	消化器系（腸）について理解し、病理部分の組織標本の作成を体験する	豚ホルモン、メス、ハサミ、トレー、発泡スチロール、虫ピン、医療用手袋
9	6月27日	講義	肝臓と分解の仕組みについて理解する	
10	7月4日	講義	胆嚢・膵臓について理解し糖尿病と関係づけて説明することができる	
11	7月11日	講義	腎臓・尿管・膀胱・尿道について理解し、尿検査の方法に触れる	
12	7月18日	講義	呼吸器系（鼻腔・咽頭・喉頭）について理解し、分類することができる	
13	8月29日	講義	呼吸器系（肺）について理解し、心臓との関連を説明することができる	
14	9月5日		前期テスト	
15	9月12日	講義	ふりかえり	
準備学習　時間外学習				

【使用教科書・教材・参考書】

Atlas of the Anatomy of Dolphins and Whales、イルカの解剖学、解剖写真、標本、iphoneコネクター、スクリーン

科目名	水族館研究Ⅰ	必修選択	選択必修	年次	1	担当教員	佐藤充
学科・コース	エコ・コミュニケーション科2年制（昼二）	授業形態	講義演習	総時間（単位）	30 1		
教員の略歴	北里大学水産学部卒業 （株)淡島マリンパーク元館長 Wonder Labo代表						
授業の学習内容	水族館の飼育者を目指す為には飼育の基本となる「新飼育ハンドブック」の内容を把握する必要があるので、これを中心に授業を行います。 飼育ハンドブックの内容は読んだだけでは解りにくいため、深く理解できるよう映像など含め授業を進めていきます。 授業は座学が中心ですが、実際に濾過槽などの機材を使用したり、水族館の見学を行ったりしてハンドブックの内容を体験も含め学習します。						
到達目標	魚類飼育全般の基礎知識を理解することが出来る。 海獣飼育全般の基礎知識を理解することが出来る。						
評価方法と基準	定期試験100% 筆記試験評価:GPA（S100～90 A89～80 B79～70 C69～60 F59～0） 再試験は公欠が認められた者のみ対応する。 追試験1回 レポート課題（教材からの抜粋）を提示し、提出をもってCの評価とする。						

授業計画・内容				
回数		授業形態	学習内容	準備学習　時間外学習(学習課題)
1		講義	授業内容の進め方説明＋アンケート	一年間の流れや、生徒の疑問質問に答える
2		講義	動物園・水族館の歴史（世界編）	新飼育ハンドブック3　P1～P32の熟読と理解
3		講義	動物園・水族館の歴史（日本編）	新飼育ハンドブック3　P1～P33の熟読と理解
4		講義	トレーニング	新飼育ハンドブック5　P113～P139136の熟読と理解
5		講義	危機管理	新飼育ハンドブック5　　P1～P83、の熟読と理解
6		講義	展示1概論　水族館における展示の意味と効果について理解できる。	新飼育ハンドブック4　P1～P90の熟読と理解
7		講義	動物の福祉に関する解説	現在の動物の取り扱いの理解
8		講義	水族館見学の前の展示解説	葛西臨海水族園の展示、イベント下調べ
9		講義	葛西臨海水族園の展示見学	葛西臨海水族園の展示振り返り
10		講義	餌料　餌料の大切さと工夫を理解できる。	新飼育ハンドブック1　P61～P90の熟読と理解
11		講義	繁殖　魚類だけでなく海獣の人工繁殖など水族館で取り組んでいる活動を理解できる。	新飼育ハンドブック1　P1～P60の熟読と理解
12		講義	教育　動物園・水族館の教育活動について具体的活動を元に説明・理解できる。	新飼育ハンドブック4　P91～P150の熟読と理解
13		講義	前期まとめ　前期の授業を再確認し、不明な点、疑問点を洗い出し、より深い理解ができる。	前期の学習内容振り返り
14		**講義・試験**	テスト対策・６０分の筆記試験	試験範囲からの予習と対策
15		**講義**	テスト結果の振り返りを行うことで、動物園水族館の役割をより深く理解する	前期に取り扱った新飼育ハンドブック全般
準備学習　時間外学習			事後学習を通じてより深く学び、事前学習を行うことで授業内での学びの展開を促す	

【使用教科書・教材・参考書】

新飼育ハンドブック　※指示をした時のみ、タブレット端末などでの検索を許可する。

科目名	水族館研究Ⅱ	必修選択	選択必修	年次	1	担当教員	佐藤充
学科・コース	エコ・コミュニケーション科2年制（昼二）	授業形態	講義演習	総時間（単位）	30 1		
教員の略歴	北里大学水産学部卒業 （株)淡島マリンパーク元館長 Wonder Labo代表						
授業の学習内容	水族館の飼育者を目指す為の基本となる「新飼育ハンドブック」を中心に授業を行います。飼育ハンドブックの内容は読んだだけでは解りにくいため、深く理解できるよう映像など含め授業を進めていきます。 授業は座学が中心ですが、実際に濾過槽などの機材を使用したり、水族館の見学を行ったりしてハンドブックの内容を学習します。						
到達目標	魚類飼育全般の基礎知識を理解することが出来る。 海獣飼育全般の基礎知識を理解することが出来る。						
評価方法と基準	小テスト20% 定期試験筆記80% 筆記試験評価：GPA（S100～90 A89～80 B79～70 C69～60 F59～0） 再試験は公欠が認められた者のみ対応する。 追試験1回 レポート課題（教材からの抜粋）を提示し、提出をもってCの評価とする。						

授業計画・内容				
回数		授業形態	学習内容	準備学習　時間外学習(学習課題)
1		講義	収集　水族館における収集活動が理解できる	新飼育ハンドブック2　P1～P51、P105～P127の熟読と理解
2		講義	輸送　動物の安全な輸送についての理解と説明が出来る。	新飼育ハンドブック2　P53～P86、P129～P152の熟読と理解
3		講義	保存　保存の意味と役割について説明できる。	新飼育ハンドブック2　P153～P169の熟読と理解
4		講義	分類	新飼育ハンドブック3　P33～P65の熟読と理解
5		講義	生理	新飼育ハンドブック3　P91～P117の熟読と理解
6		講義	生態	新飼育ハンドブック3　P129～P138の熟読と理解
7		見学	水族館見学	
8				
9		講義	見学した施設の復習	見どころ、工夫していた所を各自考える
10		講義	研究・広報　水族館で行われている研究活動について説明・理解できる。	新飼育ハンドブック4　P151～P162の熟読と理解
11		講義	施設運用	新飼育ハンドブック5　P87～P1096の熟読と理解
12		講義	病気　病気の原因と改善点が理解できる	新飼育ハンドブック1　P91～P124の熟読と理解
13		講義	前期まとめ　前期の授業を再確認し、不明な点、疑問点を洗い出し、より深い理解ができる。	
14		**講義・試験**	テスト対策・６０分の筆記試験	試験範囲からの予習と対策
15		**講義**	テスト結果からの振り返りを行うことで、水質と飼育管理の理解を深める	アクアルームの飼育当番・補助の作業を時間外学習に充当する。
準備学習　時間外学習			事後学習を通じてより深く学び、事前学習を行うことで授業内での学びの展開を促す	

【使用教科書・教材・参考書】

鑑賞魚飼育・管理士ハンドブック／鑑賞魚飼育・管理士ハンドブックⅡ　※指示をした時のみ、タブレット端末などでの検索を許可する。

科目名	応急手当Ⅱ	必修選択	選択	年次	1	担当教員	入谷拓哉
学科・ｺｰｽ	エコ・コミュニケーション科2年制（昼二）	授業形態	講義	総時間（単位）	30 1		
教員の略歴	日本ライフセービング協会 理事長、日本サーフィン連盟 理事、JLAサーフライフセービング指導員						
授業の学習内容	ライフセーバーとして救命の現場で実践活動の経験を積んだ教員が、 救命の現場の実際を交えながら一般市民に求められる応急手当や心肺蘇生の重要性を理解させ実践できるようになる知識や技術を習得する授業を行う。						
到達目標	ライフセービングの精神を理解し生命教育を通じ自分の大切な家族、友人、そして隣人の命を守りたいという人間的な愛の表現を学び、いざという時の心構えを身に着けるとともに、一般的な傷病に対して救急隊が到着するまでの間の正しい手当が実践できるように、正確な知識と技術を習得する。						
評価方法と基準	実技試験（三角巾）40%　期末試験　60%　合計で100%とする。 実技試験（三角巾）を欠席した者は、授業態度からみなし点とする。 筆記試験評価：GPA（S100～90　A89～80　B79～70　C69～60　F59～0） 再試験は公欠が認められた者のみ対応する。 追試験1回　レポート課題（教材からの抜粋）を提示し、提出をもってCの評価とする。						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習　時間外学習(学習課題)
1	10月2日	講義	AEDの設置状況について調査する	レポートを持って充当する
2	10月8日	講義	ファースト エイド の定義について説明できる 傷病者の観察について実践する	傷病者の観察方法について実施する
3	10月16日	講義	ケガについて説明できる RICE処置・止血について説明できる	止血について実施する
4	10月23日	講義	熱傷・心臓発作・脳卒中について説明できる	熱傷の処置を実施する
5	10月30日	実習	和歌山実習において現場での応急手当の状況を観察する	和歌山実習をもって充当する
6	11月6日	講義	熱中症について説明できる ケガに対する手当の手順を調べる	熱中症の処置を実施する
7	11月13日	講義	筋痙攣・低体温・過換気について説明できる	RICE処置を実施する
8	11月20日	講義	海外で働く ことについて調べる （ 映像: NHKド キュメント ）	提出レポートをもって充当する
9	11月27日	演習	保護ガーゼ・包帯・三角巾について説明できる 八つ折り・本結び・たたみ方を修得する	指定した三角巾での傷の保護を実践する
10	12月4日	演習	三角巾での傷の保護を修得する （目・頭・顔面・胸・肩・臀部・顔面・胸）	指定した三角巾での傷の保護を実践する
11	12月11日	演習	三角巾での傷の保護を修得する （肩・でん部・手・足・前腕・腕つり）	指定した三角巾での傷の保護を実践する
12	12月18日	演習	三角巾の振り返りから習得度を確認する	指定した三角巾での傷の保護を実践する
13	1月15日	演習	三角巾の実技テストから習得度を確認する	指定した三角巾での傷の保護を実践する
14	1月22日	講義・試験	テスト対策・60分の筆記試験	試験範囲からの予習と対策
15	1月29日	講義	テスト結果からの振り返りを行うことで応急手当の理解を深める	試験範囲からの復習
準備学習　時間外学習			事後学習を通じてより深く学び、事前学習を行うことで授業内での学びの展開を促す	

【使用教科書・教材・参考書】「救急法講習」日本赤十字社

※指示をした時のみ、タブレット端末などでの検索を許可する。

科目名	応急手当Ⅰ	必修選択	選択	年次	1	担当教員	入谷拓哉
		授業形態	講義	総時間（単位）	30 1		
学科・コース	エコ・コミュニケーション科2年制（昼二）						
教員の略歴	日本ライフセービング協会 理事長、日本サーフィン連盟 理事、JLAサーフライフセービング指導員						
授業の学習内容	ライフセーバーとして救命の現場で実践活動の経験を積んだ教員が、 救命の現場の実際を交えながら一般市民に求められる応急手当や心肺蘇生の重要性を理解させ実践できるようになる知識や技術を習得する授業を行う。						
到達目標	ライフセービングの精神を理解し生命教育を通じ自分の大切な家族、友人、そして隣人の命を守りたいという人間的な愛の表現を学び、 いざという時の心構えを身に着けるとともに、一般的な傷病に対して救急隊が到着するまでの間の正しい手当が実践できるように、心肺蘇生やAEDの使い方など正確な知識と技術を習得する。また命の尊さについても学ぶ。						
評価方法と基準	定期試験　100% 筆記試験評価：GPA（S100～90　A89～80　B79～70　C69～60　F59～0） 再試験は公欠が認められた者のみ対応する。 追試験1回　レポート課題（教材からの抜粋）を提示し、提出をもってCの評価とする。						

授業計画・内容

回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習　時間外学習(学習課題)
1	4月17日	講義	生活や仕事をする上で必要なことを準備する 市民の義務の一つでもあることを感じる	授業内容の理解と 個人目標の策定
2	4月24日	講義	心肺蘇生（ CPR）の意義について説明できる	心停止の傷病者への対応について実施する
3	5月8日	講義	心肺蘇生（ CPR）の手順について説明できる	心肺蘇生について実施する
4	5月15日	講義	AEDの使い方について説明できる 実際の救命現場について調べる	AEDの使い方について実践する
5	5月22日	講義	小児、乳児への心肺蘇生について説明できる 気道異物除去の方法について調べる	気道異物除去の方法について調べる
6	6月5日	講義	ライフセービングスポーツについて調べる （ 映像： ライフセービングカップ）	レポート をもって充当する
7	6月12日	実習	ダイビング実習において、現場での応急手当の状況を観察する	ダイビング実習を持って充当する
8	6月19日	演習	生体での心肺蘇生の手順を調べる レサシアンでの正しい胸骨圧迫を習得する	胸骨圧迫の方法を 調べる
9	6月26日	演習	生体での心肺蘇生の手順を調べる 胸骨圧迫と人工呼吸の方法について習得する	人工呼吸の方法を 調べる
10	7月3日	演習	AEDの使い方について調べる 気道異物除去の方法について実践する	心肺蘇生と AEDを 実践する
11	7月10日	演習	心肺蘇生と AEDの使い方について調べる	心肺蘇生と AEDを 実践する
12	7月17日	演習	集団での心肺蘇生について調べる	集団での心肺蘇生とAEDを実践する
13	8月28日	演習	集団での心肺蘇生について調べる	集団での心肺蘇生とAEDを実践する
14	9月4日	講義・ 試験	テスト 対策・ 60分の筆記試験	試験範囲から の予習と 対策
15	9月11日	講義	テスト 結果から の振り 返りを 行うことで心肺蘇生の理解を 深める （ 映像： 救命病棟24時）	試験範囲から の復習
準備学習　時間外学習			事後学習を 通じ てより 深く 学び、事前学習を 行うことで授業内での学びの展開を 促す	

【 使用教科書・ 教材・ 参考書】

※指示をした時のみ、タブレット 端末などでの検索を 許可する。

科目名	プール演習Ⅰ	必修選択	選択	年次	1	担当教員	原島大樹
		授業形態	演習	総時間（単位）	30 1		
学科・コース	エコ・コミュニケーション科　2年制　昼二						
教員の略歴	東京スポーツレクリエーション専門学校卒、㈱日本潜水機、日本コムシス㈱、㈱アドバンス取締役、㈱トラックス代表取締役						
授業の学習内容	ドルフィントレーナー、ガイド、インタープリター、インストラクターとしての必要な水泳スキルを身につける。 またそれら業務に従事する上で必要不可欠な体力を作る。 準備体操を行い人前に立つことに慣れ、プレゼンテーション能力の向上を目指す。授業は100%実技です。						
到達目標	クロールと背泳の技術が出来るようになる。技術と体力を養いクロールで200m泳ぐことが出来るようになる。 日々の生活の中で水中に入り、自身のコンディショニングが出来るよう生活習慣を身に着ける。 準備体操を通じ健康な身体の育成、コンディショニングの維持が出来るようになる。						
評価方法と基準	定期試験100%（実技）200mクロールのタイムの測定。背泳の泳力評価（25m） 再試験は公欠が認められた物のみ対応する。 追試験1回　レポート課題（泳力向上について）を提示し、提出をもってCの評価とする。						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習　時間外学習(学習課題)
1		講義・実技	学校外施設の利用方法の確認。　技術レベルによるコース分けを行う。	入学前オリエンテーションにおける3つの習慣の理解と個人目標の策定。持参品の確認。
2		実技	前期の授業内容を説明し当科目の明確な学びの目的、目標、方法を理解することが出来る。	自己の現在の泳力を理解し、目標設定と練習頻度の設定を行う。
3		実技	水慣れと呼吸方法を理解する。	
4		実技	ストリームラインの重要性を理解する。	
5		実技	クロールキックが出来るようになる。	
6		実技	クロールのプルが出来るようになる。	
7		実技	クロールのキックとプルを合わせて泳ぐことが出来る。	技術レベルに合わせて、練習頻度と練習内容を確認し、更なる技術と体力の向上を目指し、授業外でも
8		実技	クロールで泳ぐスタミナをつけ、体力の向上を図る。	
9		実技	背泳でのストリームラインを理解する。	
10		実技	クロールのスタート出来るようになる。	
11		実技	背泳のキックが出来るようになる。	
12		実技	背泳のプルが出来るようになる。	
13		実技	背泳のキックとプルを合わせて泳ぐことが出来る。	
14		**実技**	背泳で泳ぐスタミナをつけ、体力の向上を図る。	夏季休暇中の個々の練習方法を確認する。
15		**試験**	200ｍクロールタイム測定、背泳泳力評価	完泳を目指し、練習の中でタイムを確認しておくこと。
準備学習　時間外学習			技術レベルによって授業外の練習を行う必要性を理解し、目標達成に必要な技術と体力の向上を促す。	

【使用教科書・教材・参考書】

科目名	コミュニケーションスキルアップⅣ	必修選択	選択	年次	2	担当教員	片岡紀予
		授業形態	講義	総時間（単位）	30 1		
学科・ｺｰｽ	エコ・コミュニケーション科 2年制 昼二						

教員の略歴	北里大学卒業後、日油株式会社勤務。キャリアコンサルタント。精神福祉士取得、コミュニケーション、心理学講師
授業の学習内容	コミュニケーション力能力をつける、就労、及び自立を目指した学習。将来について考えて、自ら選択する能力をつけ、自分自身の自己肯定感をアップする。自ら調べる力をつける。社会に出ても通用するコミュニケーション力やプレゼン力をつけ、新社会人となったときの即戦力をつける。
到達目標	前期は自分に合った就職先を考え、自ら調べ、就職活動に活かせるコミュニケーション力をつける。また、就職活動には自己理解を深めて自分をPRする能力が必要になるため、1年生のCSUの到達目標である自己理解も更に深めていく。後期は社会人として職場で役立つコミュニケーション力をつける。
評価方法と基準	プレゼンテーション発表の評価（仕事調べでの準備、プレゼンテーションの結果を点数化、ただし研修での公欠は考慮に入れます）10%、テスト結果40%、授業態度50%。

授業計画・内容

回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習　時間外学習(学習課題)
1	4月17日	個人ワーク、講義	授業説明、ジョブタグ	就職活動準備
2	4月24日	グループワーク	業界研究	興味のある仕事について調べる
3	5月18日	グループワーク	業界研究	興味のある仕事について調べる
4	5月15日	グループワーク	業界研究	興味のある仕事について調べる
5	5月29日	プレゼンテーション	業界研究プレゼンテーション	プレゼンテーションの練習
6	6月5日	プレゼンテーション	業界研究プレゼンテーション	プレゼンテーションの練習
7	6月12日	プレゼンテーション	業界研究まとめ	就職活動準備
8	6月19日	講義、個人ワーク	自己ＰＲツリー（ＰＲポイント探し）人生曲線	就職活動準備
9	6月26日	クラスワーク	自己紹介（紹介する準備）	自分を紹介する資料作り
10	7月3日	プレゼンテーション	自己紹介	他者から見た自分をまとめ、面接に活かす
11	7月10日	グループワーク	面接準備	面接を受ける際の資料作り
12	7月17日	グループワーク	面接練習	人前で話す練習、マナーを調べる
13	8月28日	グループワーク	面接練習；講師との面接含む	人前で話す練習、マナーを調べる
14	9月4日	試験		
15	9月11日	振り返り	試験返却、今後の計画	後期に向けてのプランを立てる
準備学習　時間外学習			インターネット、本などでの企業研究。就活の本などを読むようにする	

【使用教科書・教材・参考書】

CSU教科書、配布資料

科目名	インタープリター養成講座Ⅰ	必修選択	選択	年次	1	担当教員	菅原　茂（他PACIの特別講師）
学科・コース	エコ・コミュニケーション科　2年制　昼二	授業形態	講義	総時間（単位）	30 1		

教員の略歴	明治大学政治経済学部卒、あわしまマリンパーク・総支配人、淡島水族館・館長、NPO法人PACI国際海洋自然観察員協会・会長、TCA東京ECO動物海洋専門学校・副校長（大阪、福岡、名古屋、仙台兼務）、NPO法人CNAC海に学ぶ体験活動協議会・理事
授業の学習内容	インタープリテーション（自然や野生動物のメッセージを伝える）能力を身に付けることを第一の目的とする。 授業内容は環境教育促進法（略称）に基づき,環境省（文部科学省、国土交通省の3省）に登録している「インタープリター入門講座」をベースにしている。水族館関係者、野生動物のフィールド専門家、研究者などPACIの非常勤講師の特別講義をふんだんに、業界の最新情報の収集やキャリアデザイン能力を磨く等幅広い内容で、インタープリターの基礎知識を学ぶ構成となっている。
到達目標	日帰りで10人程度の少人数の子供や大人を海辺や水族館・博物館などに案内できるインタープリターになることを目標とする。 〈具体的な目標〉 ①PACI1Star　インタープリターのガイドライン8項目について80%以上の達成を目指すこと。 ②PACI　教則本「インタープリター養成講座　Work book」（1Star,2Star兼用の1Star部分）について、80%以上理解をしていること。 ③CNAC海に学ぶ体験活動協議会編「海あそびレシピ」環境教育プログラム33件の内、10件以上のインタープリテーションが子供たちに指導できること。
評価方法と基準	①出席率（60%）　②レポート、PACIガイドライン達成率（15%）　③期末テスト・PACI・1Star検定試験（20%）　④その他貢献度（5%） 以上の割合で評価する。 評価点数が90点以上はS、80点以上はA, 70点以上はB、60点以上はC(ここまで単位取得) とする。

授業計画・内容

回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習　時間外学習(学習課題)
1	4月18日	講義	PACIのビジョン・活動目的・目標を理解する。「燃える決意」をレポートする。イルカ・クジラ写真集の解説と贈る言葉。	「インタープリター養成講座Workbook」へ書き込み復習・予習課題
2	4月25日	講義	特別講義「三屋智子」カナダ・オルカラボ研究者。2002年世界を驚かせた国際的な野生動物保護・そのロマンを学ぶ。(特別講義その1)	レポート①、予習課題
3	5月9日	講義＆演習	燃える決意発表（1分間スピーチ）レポートを見ずに語れる。Work book1～3章解説と課題。	レポート②
4	5月16日	講義	アニメ「ファインディング・ニモ」鑑賞＆面接（Workbook課題＆燃える決意チェック）。感動し学ぶ。自然体験活動。	予習・復習課題
5	5月23日	講義	この授業の狙いは①学校へ入学し5週間目、学生たちの状況を把握。②アニメも使い方により、多くの教育効果がある。	予習・復習課題
6	5月30日	演習・講義	ワークショップ：数名のグループに分かれ論議・発表する。いろんな人の意見を聞き参加者を知る訓練そして解説。	予習・復習課題
7	6月13日	講義	特別講義「篠原正則」（イルカの行動学の大家）から学ぶ、研究とは、行動学とは、人類との違いとは、など深く・広い。（特別講義その2）	レポート③
8	6月20日	演習・講義	インタープリターをやってみよう。水族館のセイウチのショー、数枚の写真を見て何をしているのか、解説に挑戦。	レポート④
9	6月27日	演習・講義	CNAC「海あそび安全講座」に参加した2年生のリーダー数名による講習会。1年生、2年生にとっても学びの機会。	予習・復習課題
10	7月4日	講義・演習	「インタープリターをやってみよう」その2. 野生のドルフィンウォッチング。数枚の写真を見て、何を語るか解説に挑戦。	レポート⑤
11	7月11日	演習・講義	Work book第4～7章解説＆課題。前期中間総括＆夏休み計画。Plan Do Check and Action(PDCA)のサイクル解説。	予習・復習課題
12	7月18日	演習・講義	夏休み総括レポート作成＆発表。	予習・復習課題
13	8月29日	テスト	PACI・1Star検定試験＆ガイドライン達成率チェック	予習・復習課題
14	9月5日		振り返り	
15	9月12日		実習振替（特別講義その3）	
準備学習　時間外学習			感動したこと、興味を持ったこと、それぞれの方法で独自に学ぶ。そこで得た知識は体験から得たと同様の「知恵」となるから重要。	

【使用教科書・教材・参考書】①教科書：「インタープリター養成講座　Work book」菅原茂監修、PACI10周年記念写真集「Whale & Dolphins」, 親子　安全海遊び講座、海あそびレシピ・海辺の環境教育プログラム事例集、②参考書：「全国水族館&フィールドガイドブック」菅原茂監修、「世界に広がるホエールウォッチング」、「インタープリター・トレーニング」、など　その他PACIホームページ参照。

科目名	インタープリター養成講座Ⅱ	必修選択	選択	年次	1	担当教員	菅原　茂（他PACIの特別講師）
学科・コース	エコ・コミュニケーション科　2年制　昼二	授業形態	講義	総時間（単位）	30 1		

教員の略歴	明治大学政治経済学部卒、あわしまマリンパーク・総支配人、淡島水族館・館長、NPO法人PACI国際海洋自然観察員協会・代表理事、TCA東京ECO動物海洋専門学校・副校長（大阪、福岡、名古屋、仙台兼務）、NPO法人CNAC海に学ぶ体験活動協議会・理事
授業の学習内容	インタープリテーション（自然や野生動物のメッセージを伝える）能力を身に付けることを第一の目的とする。 授業内容は環境教育促進法（略称）に基づき,環境省（文部科学省、国土交通省の3省）に登録している「インタープリター入門講座」をベースにしている。水族館関係者、野生動物のフィールド専門家、研究者などPACIの非常勤講師の特別講義をふんだんに、業界の最新情報の収集やキャリアデザイン能力を磨く等幅広い内容で、インタープリターの基礎知識を学ぶ構成となっている。
到達目標	日帰りで10人程度の少人数の子供や大人を海辺や水族館・博物館などに案内できるインタープリターになることを目標とする。 〈具体的な目標〉 ①PACI1Star　インタープリターのガイドライン8項目について80%以上の達成を目指すこと。 ②PACI　教則本「インタープリター養成講座　Work book」（1Star,2Star兼用の1Star部分）について、80%以上理解をしていること。 ③CNAC海に学ぶ体験活動協議会編「海あそびレシピ」環境教育プログラム33件の内、10件以上のインタープリテーションが子供たちに指導できること。
評価方法と基準	①出席率（60%）　②レポート、PACIガイドライン達成率（15%）　③期末テスト・PACI・1Star検定試験（20%）　④その他貢献度（5%） 以上の割合で評価する。 評価点数が90点以上はS、80点以上はA, 70点以上はB、60点以上はC(ここまで単位取得）とする。

授業計画・内容

回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習　時間外学習(学習課題)
1	10月5日	講義	後期シラバスの解説、海あそび・アンケート結果・解説、インタープリテーションをやってみよう。	葛西海浜公園10/14クリーンアップ作戦・チラシ配布
2	10月12日	講義&演習	下期に向けて・燃える決意発表（1分間スピーチ）。	レポート①燃える決意、予習課題<1-Cフィールド>
3	10月19日	特別講義その1	帝京科学大学・教授・篠原正典先生「イルカとヒト」	レポート②
4	10月26日	講義＆演習	アニメ鑑賞＆面接（Workbook課題＆燃える決意チェック）。	レポート②<1Bフィールド>
5	11月2日	講義＆演習	アニメ鑑賞＆面接（Workbook課題＆燃える決意チェック）。	レポート②<1-Aフィールド>
6	11月9日	特別講義その２	特別講義「三屋智子先生」カナダのオルカその2。	復習課題・レポート⑤
7	11月16日	特別講義その３	千葉自然学校・大房岬自然の家・所長「神保清司先生」の海あそび・自然のふしぎ、楽しさ、見つけ方。	演習課題・レポート⑥
8	11月23日	特別講義その４	下田海中水族園・元館長「前田尚先生」の「前田流水族館の見方、100Fish,魚編に〇〇、何だ？」	演習課題・レポート⑦
9	11月30日	講義・演習	インタープリテーションをやってみよう。1．ホエールウォッチングの現場から、2．ペンギン、3．セイウチ	復習課題・レポート⑧
10	12月7日	特別講義その５	元御蔵島ドルフィンスイムガイド（東京都公認ガイド）「宮崎優先生」野生のイルカの生態、御蔵の自然、そし	演習課題・レポート⑨
11	12月14日	講義・演習	①書籍の紹介、②冬休み計画、③発表	演習課題・レポート⑩
12	1月11日	演習・講義	冬休み総括・レポート作成、発表。	予習・復習課題・レポート⑪
13	1月18日	特別講義その６	くじら写真家・望月昭伸のレビュアー「友松こずえ先生」の世界のホエールウォッチイング紹介	予習・復習課題・レポート⑫
14	1月25日	テスト	PACI・１Star検定試験＆ガイドライン達成率チェック	
15	2月1日	ふり返り	実習について、振替	
準備学習　時間外学習			「好き」な事を大切に。「日々青春・日々感動・日々感謝」。 感動したこと、興味を持ったこと、それぞれ、徹底的に学んでほしい。 そこで得た知識は体験活動から得た「学び」と同様に血となり、肉となり「知恵」となる。	

【使用教科書・教材・参考書】①教科書：「インタープリター養成講座　Work book」菅原茂監修、PACI10周年記念写真集「Whale & Dolphins」，親子　安全海遊び講座、海あそびレシピ・海辺の環境教育プログラム事例集、②参考書：「全国水族館&フィールドガイドブック」菅原茂監修、「世界に広がるホエールウォッチング」、「インタープリター・トレーニング」、など

科目名	エキゾチックアニマルⅠ	必修選択	選択必修	年次	2	担当教員	田中大貴
学科・ｺｰｽ	エコ・コミュニケーション科　2年制(昼二)	授業形態	演習	総時間（単位）	30 1		
教員の略歴	TCA東京ECO動物海洋専門学校卒業後、観賞魚卸業、TCA教務を経験後、現在はエキゾチックアニマルの販売、餌ブリードを行う。						
授業の学習内容	水族館など主として海洋生物を取り扱う業界のおいても、生態系、生物多様性といった概念の普及に伴って、様々な動植物の展示や教育活動が行われるようになり久しい。かつては常に脇役に甘んじていたエキゾチックアニマルに対する世間の関心や需要も非常に高まっている。水生生物や愛玩動物を取り扱う問屋、小売店においても、それは同様の傾向にあり、時代のニーズに即したエキゾチックアニマルに関する知識や飼育技術の習得は、今後ますます求められていくものと予想されるため、それに即応した教育を目指すとともに動物業界で仕事をする際に必要な接客スキルを身につけ、流通・水族館等の現場で即戦力となる人材育成を行う。						
到達目標	魚類以外の飼育される動物を理解する。一般に流通している魚種について展示、解説、販売ができるようになり、用品について正しく理解する。 高校で生物を履修していない生徒でも、エキゾチックアニマル関連の業界に就職した場合に困らないだけの基礎的な知識を付ける。 園館・流通の業界の違いを理解し、どちらの業界で就業した場合でも通用する人材となる。						
評価方法と基準	定期試験100%						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習　時間外学習(学習課題)
1		講義	講師紹介。本授業の趣旨を理解できる。	
2		講義	ウサギ、ムカデをはじめとする節足動物の飼育方法。 展示・販売時の魅力的な解説を理解できる。	図鑑等でメキシカンレッドニーについて調べ、飼育室で観察する。
3		講義	ゴキブリやカマキリなどの昆虫の飼育方法。 展示・販売時の魅力的な解説を理解できる。	図鑑等でコオロギについて調べ、飼育室で観察する。
4		講義	特定動物の種類、飼育方法、許可の取得について理解できる。	図鑑等でアメリカドクトカゲについて調べ、飼育室で観察する。
5		講義	狩猟鳥獣、特定外来生物の種類、飼育方法、許可の取得について理解できる。	図鑑等でカミツキガメについて調べ、飼育室で観察する。
6		講義	哺乳類・鳥類飼育に使用する照明機器、保温機器等のバリエーション、使用方法を理解できる。	ネット通販サイトや店舗でどのような用品が販売されてるかを確認する。
7		講義	フェレットの飼育方法。展示・販売時の魅力的な解説を理解できる。	図鑑等でフェレットについて調べ、飼育室で観察する。
8		講義	マウス、ハムスターの飼育方法。展示・販売時の魅力的な解説を理解できる。	図鑑等でマウス、ハムスターについて調べ、飼育室で観察する。
9		講義	デグー、モルモット、ウサギの飼育方法。展示・販売時の魅力的な解説を理解できる。	図鑑等でデグー、モルモット、ウサギについて調べ、飼育室で観察する。
10		講義	ハリネズミ、フクロモモンガの飼育方法。展示・販売時の魅力的な解説を理解できる。	図鑑等でハリネズミ、フクロモモンガについて調べ、飼育室で観察する。
11		講義	リスザル、キンカジュー等、サルの飼育方法。展示・販売時の魅力的な解説を理解できる。	図鑑等でコモンリスザルについて調べ、飼育室で観察する。
12		講義	上記以外の珍獣と呼ばれる動物の飼育方法。 展示、販売時の魅力的な解説を理解できる。	ペットトレードにのる珍獣として扱われる動物には、どのようなものがいるか調べる。
13		講義	これまで習得した知識や技術の認識を理解できる。	これまでの板書を読み返し復習する。
14		試験	Microsoft team s を利用した試験を行う。	前回の授業で補足した内容について再度復習し、試験に備える。
15		講義	解答した試験を元に各自不明な箇所を理解できる。	これまでの板書を読み返し復習する。
準備学習　時間外学習				

【使用教科書・教材・参考書】

※指示をした時のみ、タブレット端末などでの検索を許可します。

科目名	コミュニケーションスキルアップⅠ	必修選択	必修	1	担当教員	片岡紀予
		授業形態	講義	30 1		
学科・ｺｰｽ	エコ・コミュニケーション科2年制（昼二）					

教員の略歴	北里大学卒業後、日油株式会社勤務。キャリアコンサルタント。精神福祉士取得、コミュニケーション、心理学講師
授業の学習内容	社会人になるための基本的なコミュニケーション力をつける。今後の研修、就職活動に向けて自己理解を深め、自分の長所や短所の理解を深めておく。研修先で必要なコミュニケーション力をつける。履歴書作成では主に自己分析に基づいた自己PRを作成出来るようにする。水族館やショップなどで活かせる対応力、自分自身をPRできるプレゼンテーション力をつけていく。
到達目標	前期は自己理解、他者理解を深めることでコミュニケーション力を上げていく。自己分析は自己分析ツールを使用して理解を深める。他者理解はグループワークによって理解を深めていく。後期はCSU検定の合格、更なる自己理解、他者理解を深めることで就職活動に活かせるコミュニケーション力をつけていく。
評価方法と基準	テスト結果20%、授業態度（授業態度を点数化します。再試は試験当日試験を受けなかった学生に対し当日と同じ試験を受けてもらいます。試験日に試験を受けてD評価以下の場合はレポートを出してもらい評価します。公欠だった場合は当日に試験を受けたものとみなし、評価します。

s

授業計画・内容

回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習　時間外学習(学習課題)
1	4月19日	グループワーク	授業内容説明、自己紹介ワーク	教科書１章を読む
2	4月26日	グループワーク	好きな物マップ。自分を知ってもら	教科書2章を読む
3	5月10日	個人、グループワーク	Who am I?	自己分析のまとめ
4	5月17日	個人ワーク	エゴグラム、心理テスト。	自己分析のまとめ
5	5月31日	グループワーク	対話ワーク	教科書2章を読む
6	6月7日	グループワーク	言葉で伝える図形	教科書2章を読む
7	6月14日	グループワーク	模擬店　ジェスチャーゲーム	教科書2章を読む
8	6月21日	個人、グループワーク	日常行動テスト。自己分析	自己分析に活かす
9	6月28日	グループワーク	なぞの宝島。コンセンサス	教科書３章を読む
10	7月5日	個人、グループワーク	ストローク肯定的関わり	人間関係の持ち方を日常に活かす
11	7月12日	グループワーク	もしも～がなくなったら	教科書３章を読む
12	7月19日	個人、グループワーク	ワーストワンは誰だ	価値観について考える
13	8月23日	グループワーク	わたしのイメージ	自己分析に活かす
14	9月6日	試験		
15	9月13日	振り返り	試験返却、今後の計画	試験で出来なかったことの復習
準備学習時間	基本的にはCSU教科書を準備学習とする。			

【使用教科書・教材・参考書】

CSU教科書、配布プリント

科目名	コミュニケーションスキルアップⅡ	必修選択	選択	1	担当教員	片岡紀予
		授業形態	講義	30 1		
学科・ｺｰｽ	エコ・コミュニケーション科2年制（昼二）					

教員の略歴	北里大学卒業後、日油株式会社勤務。キャリアコンサルタント。精神福祉士取得、コミュニケーション、心理学講師
授業の学習内容	社会人になるための基本的なコミュニケーション力をつける。今後の研修、就職活動に向けて自己理解を深め、自分の長所や短所の理解を深めておく。研修先で必要なコミュニケーション力をつける。履歴書作成では主に自己分析に基づいた自己PRを作成出来るようにする。水族館やショップなどで活かせる対応力、自分自身をPRできるプレゼンテーション力をつけていく。
到達目標	前期は自己理解、他者理解を深めることでコミュニケーション力を上げていく。自己分析は自己分析ツールを使用して理解を深める。他者理解はグループワークによって理解を深めていく。後期はCSU検定の合格、更なる自己理解、他者理解を深めることで就職活動に活かせるコミュニケーション力をつけていく。
評価方法と基準	テスト結果20%、授業態度（授業態度を点数化します。再試は試験当日試験を受けなかった学生に対し当日と同じ試験を受けてもらいます。試験日に試験を受けてD評価以下の場合はレポートを出してもらい評価します。公欠だった場合は当日に試験を受けたものとみなし、評価します。

授業計画・内容

回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習　時間外学習(学習課題)
1	4月17日	グループワーク	授業内容説明、自己紹介ワーク	教科書１章を読む
2	4月24日	グループワーク	好きな物マップ。自分を知ってもら	教科書2章を読む
3	5月18日	個人、グループワーク	Who am I?	自己分析のまとめ
4	5月15日	個人ワーク	エゴグラム、心理テスト。	自己分析のまとめ
5	5月29日	グループワーク,プレゼン	私のお奨めグルメ	教科書2章を読む
6	6月5日	グループワーク	言葉で伝える図形	教科書2章を読む
7	6月12日	グループワーク	模擬店　ジェスチャーゲーム	教科書2章を読む
8	6月19日	個人、グループワーク	ストローク	教科書2章を読む
9	6/26,7/3	個人、グループワーク	日常行動テスト。自己分析	自己分析に活かす
10	7月10日	グループワーク	なぞの宝島。コンセンサス	教科書３章を読む
11	7月17日	グループワーク	もしも～がなくなったら	教科書３章を読む
12	8月21日	課題提出	ストローク	実習先で行ったストロークをまとめる
13	8月23日	グループワーク	わたしのイメージ	自己分析に活かす
14	9月4日	試験		
15	9月11日	振り返り	試験返却、今後の計画	試験で出来なかったことの復習
準備学習時間	基本的にはCSU教科書を準備学習とする。			

【使用教科書・教材・参考書】

CSU教科書、配布プリント

科目名	コミュニケーションスキルアップⅢ	必修選択	選択	年次	2	担当教員	片岡紀予
学科・ｺｰｽ	エコ・コミュニケーション科 2年制 昼二	授業形態	講義	総時間（単位）	30 1		

教員の略歴	北里大学卒業後、日油株式会社勤務。キャリアコンサルタント。精神福祉士取得、コミュニケーション、心理学講師
授業の学習内容	コミュニケーション力能力をつける、就労、及び自立を目指した学習。将来について考えて、自ら選択する能力をつけ、自分自身の自己肯定感をアップする。自ら調べる力をつける。社会に出ても通用するコミュニケーション力やプレゼン力をつけ、新社会人となったときの即戦力をつける。
到達目標	前期は自分に合った就職先を考え、自ら調べ、就職活動に活かせるコミュニケーション力をつける。また、就職活動には自己理解を深めて自分をPRする能力が必要になるため、1年生のCSUの到達目標である自己理解も更に深めていく。後期は社会人として職場で役立つコミュニケーション力をつける。
評価方法と基準	プレゼンテーション発表の評価（仕事調べでの準備、プレゼンテーションの結果を点数化、ただし研修での公欠は考慮に入れます）10%、テスト結果40%、授業態度50%。

授業計画・内容

回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習　時間外学習(学習課題)
1	4月19日	個人ワーク、講義	授業説明、ジョブタグ	就職活動準備
2	4月26日	グループワーク	業界研究	興味のある仕事について調べる
3	5月10日	グループワーク	業界研究	興味のある仕事について調べる
4	5月17日	グループワーク	業界研究	興味のある仕事について調べる
5	5月31日	プレゼンテーション	業界研究プレゼンテーション	プレゼンテーションの練習
6	6月7日	プレゼンテーション	業界研究プレゼンテーション	プレゼンテーションの練習
7	6月14日	プレゼンテーション	業界研究まとめ	就職活動準備
8	6月21日	講義、個人ワーク	自己ＰＲツリー（ＰＲポイント探し）人生曲線	就職活動準備
9	6月28日	クラスワーク	他己紹介（他者を紹介する準備）	他者を紹介する資料作り
10	7月5日	プレゼンテーション	他己紹介（他者を紹介する）	他者から見た自分をまとめ、面接に活かす
11	7月12日	グループワーク	面接準備	面接を受ける際の資料作り
12	7月19日	グループワーク	面接練習	人前で話す練習、マナーを調べる
13	8月23日	グループワーク	面接練習；講師との面接含む	人前で話す練習、マナーを調べる
14	9月6日	試験		
15	9月13日	振り返り	試験返却、今後の計画	後期に向けてのプランを立てる
準備学習　時間外学習			インターネット、本などでの企業研究。就活の本などを読むようにする	

【使用教科書・教材・参考書】

CSU教科書、配布資料

科目名	コミュニケーションスキルアップⅢ	必修選択	選択	年次	2	担当教員	片岡紀予
学科・ｺｰｽ	エコ・コミュニケーション科 2年制 昼二	授業形態	講義	総時間（単位）	30 1		

教員の略歴	北里大学卒業後、日油株式会社勤務。キャリアコンサルタント。精神福祉士取得、コミュニケーション、心理学講師
授業の学習内容	コミュニケーション力能力をつける、就労、及び自立を目指した学習。将来について考えて、自ら選択する能力をつけ、自分自身の自己肯定感をアップする。自ら調べる力をつける。社会に出ても通用するコミュニケーション力やプレゼン力をつけ、新社会人となったときの即戦力をつける。
到達目標	前期は自分に合った就職先を考え、自ら調べ、就職活動に活かせるコミュニケーション力をつける。また、就職活動には自己理解を深めて自分をPRする能力が必要になるため、1年生のCSUの到達目標である自己理解も更に深めていく。後期は社会人として職場で役立つコミュニケーション力をつける。
評価方法と基準	プレゼンテーション発表の評価（仕事調べでの準備、プレゼンテーションの結果を点数化、ただし研修での公欠は考慮に入れます）10%、テスト結果40%、授業態度50%。

授業計画・内容

回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習　時間外学習(学習課題)
1	4月19日	個人ワーク、講義	授業説明、ジョブタグ	就職活動準備
2	4月26日	グループワーク	業界研究	興味のある仕事について調べる
3	5月10日	グループワーク	業界研究	興味のある仕事について調べる
4	5月17日	グループワーク	業界研究	興味のある仕事について調べる
5	5月31日	プレゼンテーション	業界研究プレゼンテーション	プレゼンテーションの練習
6	6月7日	プレゼンテーション	業界研究プレゼンテーション	プレゼンテーションの練習
7	6月14日	プレゼンテーション	業界研究まとめ	就職活動準備
8	6月21日	講義、個人ワーク	自己ＰＲツリー（ＰＲポイント探し）人生曲線	就職活動準備
9	6月28日	クラスワーク	他己紹介（他者を紹介する準備）	他者を紹介する資料作り
10	7月5日	プレゼンテーション	他己紹介（他者を紹介する）	他者から見た自分をまとめ、面接に活かす
11	7月12日	グループワーク	面接準備	面接を受ける際の資料作り
12	7月19日	グループワーク	面接練習	人前で話す練習、マナーを調べる
13	8月23日	グループワーク	面接練習；講師との面接含む	人前で話す練習、マナーを調べる
14	9月6日	試験		
15	9月13日	振り返り	試験返却、今後の計画	後期に向けてのプランを立てる
準備学習　時間外学習			インターネット、本などでの企業研究。就活の本などを読むようにする	

【使用教科書・教材・参考書】

CSU教科書、配布資料

科目名	コミュニケーションスキルアップⅣ	必修選択	選択	年次	2	担当教員	片岡紀予
		授業形態	講義	総時間（単位）	30 1		
学科・ｺｰｽ	エコ・コミュニケーション科 2年制 昼二						

教員の略歴	北里大学卒業後、日油株式会社勤務。キャリアコンサルタント。精神福祉士取得、コミュニケーション、心理学講師
授業の学習内容	コミュニケーション力能力をつける、就労、及び自立を目指した学習。将来について考えて、自ら選択する能力をつけ、自分自身の自己肯定感をアップする。自ら調べる力をつける。社会に出ても通用するコミュニケーション力やプレゼン力をつけ、新社会人となったときの即戦力をつける。
到達目標	前期は自分に合った就職先を考え、自ら調べ、就職活動に活かせるコミュニケーション力をつける。また、就職活動には自己理解を深めて自分をPRする能力が必要になるため、1年生のCSUの到達目標である自己理解も更に深めていく。後期は社会人として職場で役立つコミュニケーション力をつける。
評価方法と基準	プレゼンテーション発表の評価（仕事調べでの準備、プレゼンテーションの結果を点数化、ただし研修での公欠は考慮に入れます）10%、テスト結果40%、授業態度50%。

授業計画・内容

回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習　時間外学習(学習課題)
1	4月17日	個人ワーク、講義	授業説明、ジョブタグ	就職活動準備
2	4月24日	グループワーク	業界研究	興味のある仕事について調べる
3	5月18日	グループワーク	業界研究	興味のある仕事について調べる
4	5月15日	グループワーク	業界研究	興味のある仕事について調べる
5	5月29日	プレゼンテーション	業界研究プレゼンテーション	プレゼンテーションの練習
6	6月5日	プレゼンテーション	業界研究プレゼンテーション	プレゼンテーションの練習
7	6月12日	プレゼンテーション	業界研究まとめ	就職活動準備
8	6月19日	講義、個人ワーク	自己ＰＲツリー（ＰＲポイント探し）人生曲線	就職活動準備
9	6月26日	クラスワーク	自己紹介（紹介する準備）	自分を紹介する資料作り
10	7月3日	プレゼンテーション	自己紹介	他者から見た自分をまとめ、面接に活かす
11	7月10日	グループワーク	面接準備	面接を受ける際の資料作り
12	7月17日	グループワーク	面接練習	人前で話す練習、マナーを調べる
13	8月28日	グループワーク	面接練習；講師との面接含む	人前で話す練習、マナーを調べる
14	9月4日	試験		
15	9月11日	振り返り	試験返却、今後の計画	後期に向けてのプランを立てる
準備学習　時間外学習			インターネット、本などでの企業研究。就活の本などを読むようにする	

【使用教科書・教材・参考書】

CSU教科書、配布資料

科目名	コミュニケーションスキルアップⅣ	必修選択	選択	年次	2	担当教員	片岡紀予
		授業形態	講義	総時間（単位）	30 1		
学科・ｺｰｽ	エコ・コミュニケーション科 2年制 昼二						

教員の略歴	北里大学卒業後、日油株式会社勤務。キャリアコンサルタント。精神福祉士取得、コミュニケーション、心理学講師
授業の学習内容	コミュニケーション力能力をつける、就労、及び自立を目指した学習。将来について考えて、自ら選択する能力をつけ、自分自身の自己肯定感をアップする。自ら調べる力をつける。社会に出ても通用するコミュニケーション力やプレゼン力をつけ、新社会人となったときの即戦力をつける。
到達目標	前期は自分に合った就職先を考え、自ら調べ、就職活動に活かせるコミュニケーション力をつける。また、就職活動には自己理解を深めて自分をPRする能力が必要になるため、1年生のCSUの到達目標である自己理解も更に深めていく。後期は社会人として職場で役立つコミュニケーション力をつける。
評価方法と基準	プレゼンテーション発表の評価（仕事調べでの準備、プレゼンテーションの結果を点数化、ただし研修での公欠は考慮に入れます）10%、テスト結果40%、授業態度50%。

授業計画・内容

回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習　時間外学習(学習課題)
1	4月17日	個人ワーク、講義	授業説明、ジョブタグ	就職活動準備
2	4月24日	グループワーク	業界研究	興味のある仕事について調べる
3	5月18日	グループワーク	業界研究	興味のある仕事について調べる
4	5月15日	グループワーク	業界研究	興味のある仕事について調べる
5	5月29日	プレゼンテーション	業界研究プレゼンテーション	プレゼンテーションの練習
6	6月5日	プレゼンテーション	業界研究プレゼンテーション	プレゼンテーションの練習
7	6月12日	プレゼンテーション	業界研究まとめ	就職活動準備
8	6月19日	講義、個人ワーク	自己ＰＲツリー（ＰＲポイント探し）人生曲線	就職活動準備
9	6月26日	クラスワーク	自己紹介（紹介する準備）	自分を紹介する資料作り
10	7月3日	プレゼンテーション	自己紹介	他者から見た自分をまとめ、面接に活かす
11	7月10日	グループワーク	面接準備	面接を受ける際の資料作り
12	7月17日	グループワーク	面接練習	人前で話す練習、マナーを調べる
13	8月28日	グループワーク	面接練習；講師との面接含む	人前で話す練習、マナーを調べる
14	9月4日	試験		
15	9月11日	振り返り	試験返却、今後の計画	後期に向けてのプランを立てる
準備学習　時間外学習			インターネット、本などでの企業研究。就活の本などを読むようにする	

【使用教科書・教材・参考書】

CSU教科書、配布資料

科目名	ドルフィントレーニングⅡ	必修選択	選択	年次	1	担当教員	佐伯宏美
		授業形態	演習	総時間（単位）	30 1		
学科・ｺｰｽ	エコ・コミュニケーション科　2年制　昼二						

教員の略歴	1975年4月～2016年6月 鴨川シーワールドに在籍　鯨類の飼育・調教・展示に従事
授業の学習内容	水族館における実質的なトレーニング方法について理解・習得する 「イルカの行動と管理」「動物の体のしくみ」「動物の健康管理」の講義とリンクするが、当講義ではトレーニング理論のみならず、実際のトレーニングを行う現場での目線で講義を展開する トレーニングは言葉だけの理解ではなく動物に応用できる考え方を身につけることにより、知識だけではなく、目の前にいる動物の気持ちを考え動物目線で見られる感性を持った人材となり、動物から学ぶ姿勢を身につける
到達目標	水族館における鯨類の飼育現場で求められる知識・技能を習得し、人間（自分）本位で押し付けるのではなく動物の立場に立って考えることのできる人材になる また、様々な事象に対してその場の対処方法だけを覚えるのではなく、原因を追究し考えかたを理解することでどのような事態にも対応できる人材となる
評価方法と基準	1）定期テスト　60% 2）授業態度及び出席率　40%

授業計画・内容

回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習　時間外学習(学習課題)
1	9/27	講義	シェイピングとは何か、スモールステップを理解しシェイピングのやり方を学ぶことができる （シェイピングⅠ）	準備学習：次回講義の飼育ハンドブック該当箇所の熟読 時間外学習(学習課題)　；講義内容のまとめ　資料化
2	10/4	講義	シェイピングにおけるスモールステップの理解と実際の行動の細分化を学び（シェイピングゲーム）トレーニングを体験する （シェイピングⅡ-1）	準備学習：次回講義の飼育ハンドブック該当箇所の熟読 時間外学習(学習課題)　；講義内容のまとめ　資料化
3	10/11	講義	シェイピングにおけるスモールステップの理解と実際の行動の細分化を学び（シェイピングゲーム）トレーニングを体験する （シェイピングⅡ-2）	準備学習：次回講義の飼育ハンドブック該当箇所の熟読 時間外学習(学習課題)　；講義内容のまとめ　資料化
4	10/18	講義	メーティングによる行動の引き出し力の理解 イルカの演技の細分化を学びターゲットを使って実践する （トレーニングゲーム）（シェイピングⅢ）	準備学習：次回講義の飼育ハンドブック該当箇所の熟読 時間外学習(学習課題)　；講義内容のまとめ　資料化
5	10/25	講義	パフォーマンスで使用種目の分類を知り、種目の組み立てを理解することができる （垂直動作と水平動作）	準備学習：次回講義の飼育ハンドブック該当箇所の熟読 時間外学習(学習課題)　；講義内容のまとめ　資料化
6	11/1	講義	パフォーマンスで使用されている種目について現場目線で訓練段階を解説することによって動作のシェイピング方法をを理解することができる（各動作のシェイピング・カリキュラムⅠ）	準備学習：次回講義の飼育ハンドブック該当箇所の熟読 時間外学習(学習課題)　；講義内容のまとめ　資料化
7	11/15	講義	パフォーマンスで使用されている種目について現場目線で訓練段階を解説することによって動作のシェイピング方法をを理解することができる（各動作のシェイピング・カリキュラムⅡ）	準備学習：次回講義の飼育ハンドブック該当箇所の熟読 時間外学習(学習課題)　；講義内容のまとめ　資料化
8	11/22	講義	強化スケジュールとは何か 強化スケジュールの種類を知りそれぞれの効果を理解することができる　（強化スケジュールⅠ）	準備学習：次回講義の飼育ハンドブック該当箇所の熟読 時間外学習(学習課題)　；講義内容のまとめ　資料化
9	11/29	講義	強化スケジュールについてさらに深く理解するとともに消去について理解を深めることができる（強化スケジュールⅡ）	準備学習：次回講義の飼育ハンドブック該当箇所の熟読 時間外学習(学習課題)　；講義内容のまとめ　資料化
10	12/6	講義	問題行動の発見と対応　　やめてほしい行動をやめさせる方法を理解し、実践方法を理解することができる　（問題行動と対処）	準備学習：次回講義の飼育ハンドブック該当箇所の熟読 時間外学習(学習課題)　；講義内容のまとめ　資料化
11	12/13	講義	健康管理に必要不可欠なハズバンダリートレーニングとはなにか、ハズバンダリー種目を知り、そのトレーニング方法を学ぶことができる　　（受診動作）	準備学習：次回講義の飼育ハンドブック該当箇所の熟読 時間外学習(学習課題)　；講義内容のまとめ　資料化
12	12/20	講義	最小強化法（LRS）の原理を理解し、その必要性と実際の使用例を挙げることにより使用方法を理解することができる （LRS）	準備学習：次回講義の飼育ハンドブック該当箇所の熟読 時間外学習(学習課題)　；講義内容のまとめ　資料化
13	1/17	後期まとめ	後期の重要事項の復習を行うことにより、より深く理解することができるようになる　　併せて試験範囲の提示も行いより意識を高めることができる	
14	1/24	試験		
15	1/31	振り返り	試験問題に関する解説を行うことでより理解度を深め、トレーニング理論を再認識することができる	

準備学習　時間外学習	準備学習：次回講義の飼育ハンドブック該当箇所を熟読することにより講義内での理解度を深める 時間外学習(学習課題)；講義内容を自らまとめることにより個人の参考資料化を図る

【使用教科書・教材・参考書】

本動物園水族館協会発行「新ハンドブック水族館編」・東海大学出版会「水族館の仕事」・東海大学出版会「海獣水族館」・二瓶社「うまくやるための強化の原理」 他

随時学生に紹介する

日

科目名	プール演習Ⅱ	必修選択	選択	年次	1	担当教員	原島大樹
学科・コース	エコ・コミュニケーション科　2年制　昼二	授業形態	演習	総時間（単位）	30 1		
教員の略歴	東京スポーツレクリエーション専門学校卒、㈱日本潜水機、日本コムシス㈱、㈱アドバンス取締役、㈱トラックス代表取締役						
授業の学習内容	ドルフィントレーナー、ガイド、インタープリター、インストラクターとしての必要な水泳スキルを身につける。 またそれら業務に従事する上で必要不可欠な体力を作る。 備体操を行い人前に立つことに慣れ、プレゼンテーション能力の向上を目指す。 業は100%実技です。						準 授
到達目標	技術と体力を養いクロールで400m泳ぐことが出来るようになる。 泳ぎとサバイバルスイムの技術が出来るようになる。 サバイバルスイム（巻き足・潜水・特殊泳法）の技術が出来るようになる。 日々の生活の中で水中に入り、自身のコンディショニングが出来るよう生活習慣を身に着ける。 準備体操を通じ健康な身体の育成、コンディショニングの維持が出来るようになる。						平
評価方法と基準	定期試験100%（実技） クロールのタイムの測定。 の泳力評価（25m） 験は公欠が認められた物のみ対応する。 追試験1回　レポート課題（泳力向上について）を提示し、提出をもってCの評価とする。						400m 平泳ぎ 再試

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習　時間外学習(学習課題)
1		講義・実技	後期の授業内容を説明し当科目の明確な学びの目的、目標、方法を理解することが出来る。	入学前オリエンテーションにおける3つの習慣の理解と個人目標の策定。持参品の確認。
2		実技	技術レベルによるコース分けを行う。	自己の現在の泳力を理解し、目標設定と練習頻度の設定を行う。
3		実技	平泳ぎのキックを理解する。	
4		実技	平泳ぎのキックが出来るようになる。	
5		実技	平泳ぎのプルを確認する。	
6		実技	平泳ぎのプルが出来るようになる。	
7		実技	平泳ぎのキックとプルを合わせて泳ぐことが出来る。	
8		実技	平泳ぎのスタートを覚える。スタミナをつけ、更なる体力と泳力の向上を図る。	技術レベルに合わせて、練習頻度と練習内容を確認し、更なる技術と体力の向上を目指し、授業外でも
9		実技	サバイバルスイムの紹介 （巻き足・潜水・特殊泳法）	
10		実技	ヘッドアップクロールとオーストラリアンクロールサイドキックが出来るようになる。	
11		実技	25m潜水が出来るようになる。	
12		実技	巻き足が出来るようになる	
13		実技	オープンウォーターを意識した呼吸法が出来るようになる。	
14		実技	スタミナをつける。 水族館泳法が出来るようになる。	
15		試験	400mクロールタイム測定、背泳泳力評価	完泳を目指し、練習の中でタイムを確認しておくこと。
準備学習　時間外学習			技術レベルによって授業外練習の必要性を理解し、目標達成に必要な技術と体力の向上を促す。	

【使用教科書・教材・参考書】

科目名	マリンフィールドワークⅠ	必修選択	選択・必修	年次	2	担当教員	白井芳弘
学科・ｺｰｽ	エコ・コミュニケーション科２年制（昼二）	授業形態	講義・演習	総時間（単位）	30 1		
教員の略歴	金沢水族館学芸員・あわしまマリンパーク学芸員・館長をへて、自然観察指導員として子供たちの自然教室を指導						
授業の学習内容	海や川や湖などで生物採集を行うことは、生物の生息環境を知るうえで大切です、この授業では、さらに踏み込んで、生物がその環境でどのように生きているのかを調べます。水族館の活動の１つに調査研究があります。 フィールドにでて生物を採集し、個体数・体の大きさ・雌雄判別など、フィールドで調べることができるデータを集めます。さらに水質測定を行い生物が生活する環境を調べ、ます。 この授業を通してフィールドを見ると環境が推測でき、出現する生物の推測ができるというところまで力をつけることを目的とします。						
到達目標	①実験の進め方（目的・方法・結果・考察）を理解できる ②カニの体の名称を説明できる、さらにノギスを用いて甲幅測定をすることができる ③ベンケイガニ科の種の検索を行うことができ種名を説明できる ④陸カニの呼吸方法・摂餌方法・雌雄判別を行うことができる ⑤フィールドにて採集・調査を行い写真記録・測定記録をとることができる ⑥フィールドで得たデータをまとめ表の作成・グラフの作成をおこなおことができる ⑦表とグラフを読み取り文章を作成することができる ⑧これらの結果から「なぜ」を導きだして考察することができる ⑨期限を守りレポートを提出できる						
評価方法と基準	実習レポート　８０％ 出席　　２０％ 総合試験評価：GPA（S100～90　A89～80　B79～70　C69～60　F59～0）　再試験は公欠が認められた者のみ対応する。 追試験1回　チームズ試験の再試験を行い、９０点以上でCの評価とする。						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習　時間外学習(学習課題)
1		講義	1年間の授業の内容と進め方、甲殻類の体の名称をおぼえ説明できる	配布プリント（カニの体の名称を）を読み返す
2		講義	甲殻類の分類（カニの分類を学習し、ベンケイガニ科の特徴をおぼえる）	配布プリント（ベンケイガニ科の種）を読み返す
3		実習	荒川河川敷にてベンケイガニの生息状況を調査を行い、調査地点図を描くことができる、測定値・記録	事前学習：実習の目的と方法を再確認　事後学習：フィールドで書いたデータをノートに清書し、写真
4		実習		
5		講義	採集生物の検索と観察・各班調査データをまとめ、生息個体数を推察する。	採集したカニ成体を観察し、種名検索を確実にする
6		講義	データから表を作成し、グラフ化それを文章として説明する。	完成したた表からグラフを作成し、そこに文章をつけて次回の授業に持参する
7		講義	手賀沼の自然・水質データの読み方	荒川レポート提出
8		実習	手賀沼において水質調査と生物採集を行いデータを記録する　　2限連続	水質測定項目と測定データが示すものを復習しておく
9		実習		
10		実習	採集生物の検索と観察・各班調査データをまとめる（1）	生物の特徴と種の検索方法を理解しておく
11		実習	採集生物の検索と観察・各班調査データをまとめる（2）	生物の特徴と種の検索方法を理解しておく
12		講義	レポートのまとめ方・表作成の方法	
13		講義	試験範囲の説明	レポート提出
14		**試験**	チームズ試験	
15		**講義**	前期の振り返り	レポートを再度見直し、フィールドの環境と生物の関係を理解できる
準備学習　時間外学習			実習・実験の目的・方法を事前に確認し、終了後に結果をまとめる	

【使用教科書・教材・参考書】　配布プリント

※指示をした時のみ、タブレット端末などでの検索を許可する。

科目名	マリンフィールドワークⅡ	必修選択	選択・必修	年次	2	担当教員	白井芳弘
学科・コース	エコ・コミュニケーション科２年制（昼二）	授業形態	講義・演習	総時間（単位）	30 1		
教員の略歴	金沢水族館学芸員・あわしまマリンパーク学芸員・館長をへて、自然観察指導員として子供たちの自然教室を指導						
授業の学習内容	海や川や湖などで生物採集を行うことは、生物の生息環境を知るうえで大切です、この授業では、さらに踏み込んで、生物がその環境でどのように生きているのかを調べます。水族館の活動の１つに調査研究があります。 フィールドにでて生物を採集し、個体数・体の大きさ・雌雄判別など、フィールドで調べることができるデータを集めます。さらに調査場所を変えて、環境の違いにより生物の種組成がどのように変化するのかを見ていきます。 この授業を通して環境を見ると出現する生物の推測ができるというところまで力をつけることを目的とします。さらに、タイプが異なる魚種の解剖を通して消化器系や肝臓の役割の違いを理解します。						
到達目標	①調査の進め方（目的・方法・結果・考察）を理解できる ②魚類の内部構造と名称を説明できる。 ③採集した魚類を検索のポイントにそい種類を同定できる ④胃内容物を調べ食性を推察できる ⑤フィールドにて採集・調査を行い写真記録・測定記録をとることができる ⑥フィールドで得てデータをまとめ表の作成・グラフの作成をおこなおことができる ⑦ ⑧これらの結果から「なぜ」を導きだして考察することができる ⑨期限を守りレポートを提出できる						
評価方法と基準	実習レポート ３０％ チームズ試験 ６０％ 出席 １０％ 総合試験評価：GPA（S100～90 A89～80 B79～70 C69～60 F59～0） 再試験は公欠が認められた者のみ対応する。 追試験1回 チームズ試験の再試験を行い、９０点以上でCの評価とする。						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習　時間外学習(学習課題)
1	10月6日	講義	魚類の生理学・消化器系の構造と役割	
2	10月13日	講義	採集実習の目的・採集場所と方法の確認	
3	10月20日	実習	A:10月20日、B:10月２７日2限連続	
4	10月27日	実習		
5	11月3日	実習	採集生物の検索と解剖（１）	
6	11月10日	実習	採集生物の検索と解剖（２）	
7	11月17日	実習	採集生物の検索と解剖（３）	
8	11月24日	講義	採集生物検索と解剖のまとめ	
9	12月1日	講義	藻食魚類の消化器系の特徴	
10	12月8日	実習	アイゴとカワハギの解剖　A:12月８日、B:12月１５日2限連続	
11	12月15日	実習		
12	1月12日	講義	解剖のまとめ	
13	1月19日	講義	前期まとめ	
14	1月26日	講義	チームズ試験	
15	2月2日	講義	1年間のまとめ	
準備学習　時間外学習			実習・実験の目的・方法を事前に確認し、終了後に結果をまとめる	

【使用教科書・教材・参考書】　配布プリント

※指示をした時のみ、タブレット端末などでの検索を許可する。

科目名	海洋保全Ⅰ	必修選択	選択	年次	2	担当教員	沼口麻子
学科・コース	エコ・コミュニケーション科 2年制 昼二	授業形態	講義	総時間（単位）	30 1		
教員の略歴	東海大学海洋学部卒業後、同大学海洋学研究科水産学専攻修士課程修了。現在、世界で唯一のシャークジャーナリスト として活動。						
授業の学習内容	サメ(軟骨魚綱 板鰓亜綱)という海洋生態系の頂点に位置するグループについての講義が中心となります。形態・分類・行動・食性・繁殖・人との関わりなど、サメを多角的に学び、保全活動について関心を高め、絶滅危惧種について自ら調べるスキルを身につけます。 海の環境を改善するためには、より多くの人に行動変化を起こさせる必要があります。購入するペットボトルを1本減らす、海岸のゴミを毎日1つ拾う、これらは些細なことかもしれませんが1億人が行動したらどうなるでしょう。まずは自らができることを考え、実行してみましょう。 ※サメの生体サンプルを使用するため、内容が変更になる場合があります。						
到達目標	①サメの知識を修得する。;座学だけでなく、生体および標本の観察・解剖といった体験によるシャーキビリティの向上を計る。 ②絶滅危惧種であるか否かを調べることができる。;IUCNレッドリストデータベースの最新情報を検索するスキルを得る。 ③使い捨てプラスチック製品の使用を減らす。;ペットボトルの購入本数削減計画を立て実行する。						
評価方法と基準	定期試験100% 筆記試験評価:GPA（S100～90　A89～80　B79～70　C69～60　F59～0） 再試験は公欠が認められた者のみ対応する。 追試験1回　レポート課題（教材からの抜粋）を提示し、提出をもってCの評価とする。						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習　時間外学習(学習課題)
1	4月20日	ガイダンス	シラバスを理解することができる。サメの基礎及びサメの標本の作り方について知識を得ることができ	Teams課題；アンケート（サメの印象、関心のある環境問題、好きな生物など、購入したペットボトル
2	4月27日	標本作り実習	サメの頭の構造を理解し、頭骨と顎骨を分離する技術を体得する。	Teams課題；サンプル写真の提出、授業レポート、授業の要点疑問点、購入したペットボトル本数報告
3	5月11日	標本作り実習	サメの顎のクリーニング及び漂白する技術を習得する。	Teams課題；サンプル写真の提出、授業レポート、授業の要点疑問点、購入したペットボトル本数報告
4	5月18日	標本作り実習	サメの顎のクリーニング及び漂白する技術を習得する。	Teams課題；サンプル写真の提出、授業レポート、授業の要点疑問点、購入したペットボトル本数報告
5	5月25日	標本作り実習	サメの顎を固定し、乾燥を行い、標本を完成することができる。	Teams課題； 授業の要点疑問点、プラスチックが生物に与える影響とは何ですか、購入したペットボト
6	6月1日	講義・演習	サメの分類、形態について知識を修得できる。	Teams課題； 授業の要点疑問点、プラゴミが魚よりも増えるのはいつですか。そうなると何が起きます
7	6月15日	講義・演習	サメの系統・分布について知識を修得できる。	Teams課題； 授業の要点疑問点、なぜ生物はプラスチックを食べてしまうのですか、絶滅危惧種の評価
8	6月22日	講義・演習	サメの環境・生態について知識を修得できる。	Teams課題； 授業の要点疑問点、プラゴミを少なくするにはどうすれば良いですか。具体的にあなたが
9	6月29日	講義・演習	サメと人との関わりについて知識を修得できる。	Teams課題； 授業の要点疑問点、漁業にはどんなスタイルの漁業がありますか。養殖のメリットとデメ
10	7月6日	講義・演習	絶滅危惧種について自ら調べるスキルを体得できる。	Teams課題； 授業の要点疑問点、購入したペットボトル本数報告とレポートまとめ
11	7月13日	ープディスカッシ	環境問題に関するテーマにおいて、問題点を指摘できる。	Teams課題； 授業の要点疑問点、購入したペットボトル本数報告
12	7月20日	ープディスカッシ	環境問題に関するテーマにおいて、問題点を指摘できる。	Teams課題； 授業の要点疑問点、購入したペットボトル本数報告
13	8月31日	テスト対策	サメの基礎知識、IUCN絶滅危惧種評価検索を復習し、テストに向けて更に理解を深めることができ	Teams課題； 授業の要点疑問点、購入したペットボトル本数報告
14	9月7日	テスト	テスト	
15	9月14日	振り返り	テスト結果からの振り返りを行うことで、サメの基礎知識及びIUCN絶滅危惧種について知識を深めるこ	Teams課題； 授業の要点疑問点、購入したペットボトル本数報告
準備学習　時間外学習			事後学習を通じてより深く学び、事前学習を行うことで授業内での学びの展開を促す	

【使用教科書・教材・参考書】 ほぼ命がけサメ図鑑（講談社）沼口麻子著　他

※IUCNレッドリスト検索の際は、タブレット端末などでの検索を許可する。

科目名	海洋保全Ⅱ	必修選択	選択	年次	2	担当教員	沼口麻子
学科・コース	エコ・コミュニケーション科 2年制 昼二	授業形態	講義	総時間（単位）	30 1		
教員の略歴	東海大学海洋学部卒業後、同大学海洋学研究科水産学専攻修士課程修了。現在、世界で唯一のシャークジャーナリスト として活動。						
授業の学習内容	サメ(軟骨魚綱 板鰓亜綱)という海洋生態系の頂点に位置するグループについての講義が中心となります。形態・分類・行動・食性・繁殖・人との関わりなど、サメを多角的に学び、保全活動について関心を高め、絶滅危惧種について自ら調べるスキルを身につけます。 海の環境を改善するためには、より多くの人に行動変化を起こさせる必要があります。購入するペットボトルを1本減らす、海岸のゴミを毎日1つ拾う、これらは些細なことかもしれませんが1億人が行動したらどうなるでしょう。まずは自らができることを考え、実行してみましょう。 ※サメの生体サンプルを使用するため、内容が変更になる場合があります。						
到達目標	①サメの知識を修得する。;座学だけでなく、生体および標本の観察・解剖といった体験によるシャーキビリティの向上を計る。 ②絶滅危惧種であるか否かを調べることができる。;IUCNレッドリストデータベースの最新情報を検索するスキルを得る。 ③使い捨てプラスチック製品の使用を減らす。;ペットボトルの購入本数削減計画を立て実行する。						
評価方法と基準	定期試験100% 筆記試験評価:GPA（S100～90　A89～80　B79～70　C69～60　F59～0） 再試験は公欠が認められた者のみ対応する。 追試験1回　レポート課題（教材からの抜粋）を提示し、提出をもってCの評価とする。						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習　時間外学習(学習課題)
1	4月20日	ガイダンス	シラバスを理解することができる。サメの基礎及びサメの標本の作り方について知識を得	Teams課題；アンケート（サメの印象、関心のある環境問題、好きな生物など、購入した
2	4月27日	標本作り実習	サメの頭の構造を理解し、頭骨と顎骨を分離する技術を体得する。	Teams課題；サンプル写真の提出、授業レポート、授業の要点疑問点、購入したペット
3	5月11日	標本作り実習	サメの顎のクリーニング及び漂白する技術を習得する。	Teams課題；サンプル写真の提出、授業レポート、授業の要点疑問点、購入したペット
4	5月18日	標本作り実習	サメの顎のクリーニング及び漂白する技術を習得する。	Teams課題；サンプル写真の提出、授業レポート、授業の要点疑問点、購入したペット
5	5月25日	標本作り実習	サメの顎を固定し、乾燥を行い、標本を完成することができる。	Teams課題； 授業の要点疑問点、プラスチックが生物に与える影響とは何ですか、購入し
6	6月1日	講義・演習	サメの分類、形態について知識を修得できる。	Teams課題； 授業の要点疑問点、プラゴミが魚よりも増えるのはいつですか。そうなると
7	6月15日	講義・演習	サメの系統・分布について知識を修得できる。	Teams課題； 授業の要点疑問点、なぜ生物はプラスチックを食べてしまうのですか、絶滅
8	6月22日	講義・演習	サメの環境・生態について知識を修得できる。	Teams課題； 授業の要点疑問点、プラゴミを少なくするにはどうすれば良いですか。具体
9	6月29日	講義・演習	サメと人との関わりについて知識を修得できる。	Teams課題； 授業の要点疑問点、漁業にはどんなスタイルの漁業がありますか。養殖のメ
10	7月6日	講義・演習	絶滅危惧種について自ら調べるスキルを体得できる。	Teams課題； 授業の要点疑問点、購入したペットボトル本数報告とレポートまとめ
11	7月13日	ープディスカッシ	環境問題に関するテーマにおいて、問題点を指摘できる。	Teams課題； 授業の要点疑問点、購入したペットボトル本数報告
12	7月20日	ープディスカッシ	環境問題に関するテーマにおいて、問題点を指摘できる。	Teams課題； 授業の要点疑問点、購入したペットボトル本数報告
13	8月31日	テスト対策	サメの基礎知識、IUCN絶滅危惧種評価検索を復習し、テストに向けて更に理解を深めるこ	Teams課題； 授業の要点疑問点、購入したペットボトル本数報告
14	9月7日	テスト	テスト	
15	9月14日	振り返り	テスト結果からの振り返りを行うことで、サメの基礎知識及びIUCN絶滅危惧種について知	Teams課題； 授業の要点疑問点、購入したペットボトル本数報告
準備学習　時間外学習			事後学習を通じてより深く学び、事前学習を行うことで授業内での学びの展開を促す	

【使用教科書・教材・参考書】 ほぼ命がけサメ図鑑（講談社）沼口麻子著　他

※IUCNレッドリスト検索の際は、タブレット端末などでの検索を許可する。

科目名	解剖生理Ⅰ	必修選択	選択	年次	2年	担当教員	阿部葉子 阿部宜之
学科・ｺｰｽ	エコ・コミュニケーション科2年制（昼二）	授業形態	講義 演習	総時間 （単位）	30 1		
教員の略歴	日本大学農獣医学部水産学科卒、日本大学農獣医学部副手、日本大学鶴ケ丘高等学校、埼玉県立滑川高等学校、 日本動物植物専門学校、武蔵越生高等学校、日本女子体育大学附属二階堂高等学校、聖望学園中学高等学校、武蔵越生高等学校						
授業の学習内容	○解剖学は、種の同定、死因や病因の解明、生物を取り巻く環境の調査等、生き物と関わる上で不可欠なものです。 ○主に魚類学,生理学病理学で習った内容を実際に自分の目で、自分の手で確認していきます。 ○この授業で、計測、解剖、顕微鏡試料作成、検鏡が自ら時間をかけずに行えることはもちろん　準備や片付けの実務、集団の中で自分が今何を行わなくてはいけないかを見極めて動くことも学んで頂きたいです。 ○前期のみのため、理論のレクチャーがありません。概要は説明しますが、細かな知識・理論（復習事項）をきちんと予習した上で実習に臨んでください.						
到達目標	1.実習を通して 魚類の外部形態、及び内部形態の観察、計測、計数形質の測定部位の確認。 2.魚類の簡単な同定ができる。（同定のための手順の確認 ） 3.血液標本を作成して計測と検鏡ができる。 4.細菌の扱い、グラム染色の技法を習得する。 5. 顕微鏡の操作を理解して、適切な調整、検鏡ができる。 6.解剖器具、顕微鏡、血液検査器具、最近検査器具の扱いを習得できる。						
評価方法と基準	実験・実習技能、アウトプット（レポート）100% レポートはフォーマット内に記入の他、各自の分析、調べなどで加点する。 期限を過ぎたものは受け付けない。 総合評価：GPA(S100～90　A89～80　B79～70　C69～60　F59～0)						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習　時間外学習(学習課題)
1	5/18 5/25	講義	魚類の生物学上の位置付け/魚類の外部形態	
2		講義	計測部位①	
3		講義	計測部位②/魚類の計数形質①	
4		講義	魚類の計数形質②	
5		講義	解剖実習手順解説	レポート作成準備
6	6/15 6/22	講義	魚類の内部形態/解剖実習準備	
7		実習	魚類の計測実習	
8		実習	魚類の解剖実習	
9		実習	魚類の内部形態観察、切り出し	レポート作成
10		実習	片付け/細菌サンプリング手順説明	次回細菌実験のサンプリングと培養
11	6/29 7/06	講義	血液実習手順解説実習/準備	
12		実習	コイの採血と血液塗抹標本作成・血球計算	
13		講義	血液実習手順解説実習/準備	
14		実習	グラム染色標本作成	
15		実習	グラム染色標本検鏡/片付け	レポート作成
準備学習　時間外学習			レポート課題を事前に記入して講義のない部分を補う。授業後は、アクアルームや実習先での同定、死因や病因の解明等、実践に役立てる。	

【使用教科書・教材・参考書】「魚学入門」岩井保著（恒星社厚生閣）、「新魚類解剖図鑑」木村清志監修（緑書房）

「魚類生理学の基礎」会田勝美編（恒星社厚生閣）「魚類の分類の図鑑世界の魚の種類を考える」上野輝彌・坂本一男著（東海大学出版会）

科目名	海洋哺乳類学Ⅰ	必修選択	選択	年次	1	担当教員	小澤 紀恵
学科・ｺｰｽ	エコ・コミュニケーション科 2年制 昼二	授業形態	講義	総時間（単位）	30 1		

教員の略歴	TCAドルフィントレーナー専攻 卒、八景島シーパラダイス、アクアパーク品川 勤務
授業の学習内容	◦海洋生物に関わる業界に必要とされる、『素質ある人材』の育成を目的とし授業を行います。 ◦海洋哺乳類の基礎的な知識や、飼育する上での健康管理やトレーニング、動物福祉を考えた飼育方法などを、映像や資料を使い講義します。 ◦学習内容を復習するとともに、人に伝える力と仲間との協調性を養うことができるよう、グループでの発表を行います。 ◦コミュニケーション力や、積極性、観察力を養うため、様々なレクリエーションを行います。
到達目標	◦海洋哺乳類の基礎的な知識や飼育管理の方法を身につけ、飼育下の動物にとって、より良い環境を考える事が出来るようになる。 ◦レクリエーションを通じて、積極的にコミュニケーションを取る事や、人前に出て伝える事が出来るようになる。
評価方法と基準	(1)定期試験(グループ発表) 50%・・・学習の理解、プレゼンテーション力、協調性などを評価します。 (2)小テスト 20% (3)授業態度 30%・・・メモを取る事、質問などの発言、課題提出、出席数などを評価します。 再試験は公欠が認められた者のみ対応する。 追試験1回 筆記(小テストの中から出題)80点以上でCの評価とする。 またはレポート提出でC評価とする。

授業計画・内容

回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習　時間外学習(学習課題)
1	4月20日	講義・演習	自己紹介と、授業の目的を理解し各自の目標設定ができる。	インタビューシートを作成し、各自の目標をたてる。
2		講義	鯨類の分類・特徴・展示方法について知る事ができる。	国内の水族館に展示されている鯨類を1種類調べてまとめる。
3		講義	鰭脚類の分類・特徴・展示方法について知る事ができる。	国内の水族館に展示されている鰭脚類を1種類調べてまとめる。
4		講義	海牛類、ホッキョクグマの分類・特徴・展示方法について知る事ができる。	国内の水族館に展示されている海牛類を調べてまとめる。
5		講義	ラッコ、カワウソの分類・特徴・展示方法について知る事ができる。	国内で飼育されているラッコが数を減らしていることについて、自分の考えをまとめる。
6		講義	ペンギンの分類・特徴・展示方法について知る事ができる。	フンボルトペンギン属の3種について、調べてまとめる。
7		講義	餌の種類・量・栄養について知る事ができる。	アジ、サバ、ホッケの特徴を絵を描いて示しまとめる。
8		実習	ダイビング実習	
9		講義	調餌～給餌方法を知る事ができる。	サンマ、イワシ、シシャモの特徴を絵を描いて示しまとめる。
10		講義	企画書について知り、グループ内でテーマを決め学習の確認が出来る。(特別講義)	小テストに向け、復習する。
11		講義・演習	役割分担、構成などを決め、企画書の作り方を学習することが出来る。(小テスト)	企画書を作成する。
12		講義・演習	グループ内で協力し、復習ができ、プレゼンの方法を知る事ができる。	メンバーで協力し、まとめ、より効果的なプレゼン方法を考える。
13		講義・演習	作業の確認と、プレ発表ができる。	時間配分を考え、発表の練習をする。
14	9月7日	試験	人前で発表し、他のグループの評価をすることができる。	自身と、他グループの評価をする。
15	9月14日	講義	発表の振り返りができ、今後の目標設定ができる。	今後の目標を設定する。
準備学習　時間外学習			復習をする事で、理解を深め、すぐ実践できる力をつける。	

【使用教科書・教材・参考書】

科目名	海洋哺乳類学Ⅱ	必修選択	選択	年次	1	担当教員	小澤 紀恵
学科・ｺｰｽ	エコ・コミュニケーション科 2年制 昼二	授業形態	講義	総時間（単位）	30 1		

教員の略歴	TCAドルフィントレーナー専攻 卒、八景島シーパラダイス、アクアパーク品川 勤務
授業の学習内容	◦海洋生物に関わる業界に必要とされる、『素質ある人材』の育成を目的とし授業を行います。 ◦海洋哺乳類の基礎的な知識や、飼育する上での健康管理やトレーニング、動物福祉を考えた飼育方法などを、映像や資料を使い講義します。 ◦学習内容を復習するとともに、人に伝える力と仲間との協調性を養うことができるよう、グループでの発表を行います。 ◦コミュニケーション力や、積極性、観察力を養うため、様々なレクリエーションを行います。
到達目標	◦海洋哺乳類の基礎的な知識や飼育管理の方法を身につけ、飼育下の動物にとって、より良い環境を考える事が出来るようになる。 ◦レクリエーションを通じて、積極的にコミュニケーションを取る事や、人前に出て伝える事が出来るようになる。
評価方法と基準	(1)定期試験(グループ発表) 50%・・・学習の理解、プレゼンテーション力、協調性などを評価します。 (2)小テスト 20% (3)授業態度 30%・・・メモを取る事、質問などの発言、課題提出、出席数などを評価します。 再試験は公欠が認められた者のみ対応する。 追試験1回 筆記(小テストの中から出題)80点以上でCの評価とする。 またはレポート提出でC評価とする。

授業計画・内容

回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習　時間外学習(学習課題)
1	4月20日	講義・演習	自己紹介と、授業の目的を理解し各自の目標設定ができる。	インタビューシートを作成し、各自の目標をたてる。
2		講義	鯨類の分類・特徴・展示方法について知る事ができる。	国内の水族館に展示されている鯨類を1種類調べてまとめる。
3		講義	鰭脚類の分類・特徴・展示方法について知る事ができる。	国内の水族館に展示されている鰭脚類を1種類調べてまとめる。
4		講義	海牛類、ホッキョクグマの分類・特徴・展示方法について知る事ができる。	国内の水族館に展示されている海牛類を調べてまとめる。
5		講義	ラッコ、カワウソの分類・特徴・展示方法について知る事ができる。	国内で飼育されているラッコが数を減らしていることについて、自分の考えをまとめる。
6		講義	ペンギンの分類・特徴・展示方法について知る事ができる。	フンボルトペンギン属の3種について、調べてまとめる。
7		講義	餌の種類・量・栄養について知る事ができる。	アジ、サバ、ホッケの特徴を絵を描いて示しまとめる。
8		実習	ダイビング実習	
9		講義	調餌～給餌方法を知る事ができる。	サンマ、イワシ、シシャモの特徴を絵を描いて示しまとめる。
10		講義	企画書について知り、グループ内でテーマを決め学習の確認が出来る。(特別講義)	小テストに向け、復習する。
11		講義・演習	役割分担、構成などを決め、企画書の作り方を学習することが出来る。(小テスト)	企画書を作成する。
12		講義・演習	グループ内で協力し、復習ができ、プレゼンの方法を知る事ができる。	メンバーで協力し、まとめ、より効果的なプレゼン方法を考える。
13		講義・演習	作業の確認と、プレ発表ができる。	時間配分を考え、発表の練習をする。
14	9月7日	試験	人前で発表し、他のグループの評価をすることができる。	自身と、他グループの評価をする。
15	9月14日	講義	発表の振り返りができ、今後の目標設定ができる。	今後の目標を設定する。
準備学習　時間外学習			復習をする事で、理解を深め、すぐ実践できる力をつける。	

【使用教科書・教材・参考書】

科目名	魚類学Ⅰ	必修選択	選択	年次	1	担当教員	鈴木倫明
学科・コース	エコ・コミュニケーション科 2年制 昼二	授業形態	講義	総時間（単位）	30 1		
教員の略歴	東海大学卒業・串本海中公園、南知多ビーチランド、マリンピア日本海などでの勤務経験						
授業の学習内容	本コースの受講学生の多くは、水族館への就職を希望していると思われる。組織（設置者）にもよるが、水族館に就職した際に配属される部署は流動的である。例えばイルカトレーナーを希望したとしても魚類飼育チームに配属されることは普通に起こりうる。そうした点を考慮し、一般的に水族館の主たる展示生物といえる魚類についての情報を多角的に講義する。						
到達目標	得られた知識が水族館における飼育展示業務に活用できるようになる						
評価方法と基準	・期末試験（80%） ・出席率（10%） ・授業態度（10%）						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習　時間外学習(学習課題)
1		講義	分類（1）：分類の概念・学名、標準和名	
2		同上	分類（2）：分類体系、動物界の各門	
3		同上	総論：分類学の応用、「魚類」を理解	
4		同上	無顎類：分類学の応用、構成メンバーを知る	
5		同上	軟骨魚類（1）：構成メンバーを知る	
6		同上	軟骨魚類（2）：板鰓類（サメ・エイ類）を知る	
7		同上	硬骨魚類（1）：「肉鰭類」の構成メンバーを知	
8		同上	硬骨魚類（2）：「条鰭類」の構成メンバーを知	
9		同上	硬骨魚類（3）：「真骨類」の構成メンバーを知	
10		同上	生息環境（1）：分布や回遊、淡水魚の定義、	
11		同上	生息環境（2）：海水魚の定義、深海魚、他	
12		同上	講義のまとめ（1）：「分類」から「軟骨魚」まで	
13		同上	講義のまとめ（2）：「硬骨魚」から「生息環境」	
14		試験	ペーパーテストの実施	
15		振り返り	解答・解説・前期の総括	
準備学習　時間外学習				

【使用教科書・教材・参考書】

科目名	魚類学Ⅱ	必修選択	選択	年次	1	担当教員	鈴木倫明
		授業形態	講義	総時間（単位）	30 1		
学科・ｺｰｽ	エコ・コミュニケーション科　2年制 昼二						
教員の略歴	東海大学卒業・串本海中公園、南知多ビーチランド、マリンピア日本海などでの勤務経験						
授業の学習内容	本コースの受講学生の多くは、水族館への就職を希望していると思われる。組織（設置者）にもよるが、水族館に就職した際に配属される部署は流動的である。例えばイルカトレーナーを希望したとしても魚類飼育チームに配属されることは普通に起こりうる。そうした点を考慮し、一般的に水族館の主たる展示生物といえる魚類についての情報を多角的に講義する。						
到達目標	得られた知識が水族館における飼育展示業務に活用できるようになる						
評価方法と基準	・期末試験（80%） ・出席率（10%） ・授業態度（10%）						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習　時間外学習(学習課題)
1		講義	魚類の生理（１）：「呼吸」「循環系」に	「飼育ハンドブック ３　生理」を通覧する
2		同上	魚類の生理（２）：「消化吸収」「排泄」	同上
3		同上	魚類の生理（３）：「神経系」「感覚」に	同上
4		同上	魚類の繁殖（１）：「集団産卵」「一夫多	「飼育ハンドブック１　繁殖」を通覧する
5		同上	魚類の繁殖（２）：「性の様式」「雌雄同	同上
6		同上	魚類の繁殖（３）：「卵と仔稚魚」につい	同上
7		同上	魚類の食性（１）	「魚学入門第13章」を通覧する
8		同上	魚類の食性（２）	同上
9		同上	魚類の共生	「配布資料」を通覧する
10		同上	魚類の防御（１）	同上
11		同上	魚類の防御（２）	同上
12		同上	講義のまとめ（１）：「生理（１）」から	配布資料（分類～軟骨魚類）を通覧する
13		同上	講義のまとめ（２）：「食性（１）」から	配布資料（硬骨魚～生息環境）を通覧する
14		試験	ペーパーテストの実施	
15		振り返り	解答・解説・前期の総括	
準備学習　時間外学習				

【使用教科書・教材・参考書】

「自作配布資料」・「 魚学入門（恒星社厚生閣）」・「新・飼育ハンドブック水族館編１～５（日本動物園水族館協会）」・その他

科目名	鯨類の飼育管理Ⅰ	必修選択	選択必修	年次	2	担当教員	佐伯宏美
		授業形態	講義演習	総時間（単位）	30 1		
学科・ｺｰｽ	エコ・コミュニケーション科　2年制　昼二						

教員の略歴	1975年4月～2016年6月 鴨川シーワールドに在籍　鯨類の飼育・調教・展示に従事
授業の学習内容	水族館における「素晴らしい展示」には「よい調教」が必要であり、よい調教を行うには「よい飼育」を行い健康な動物を確保することが必要であることから、すべてにおいて「飼育」が基本となる 飼育の重要性を十分に理解し、水族館での鯨類の実質的な飼育について知り理解する 「水族館学」「海洋哺乳類」とリンクするが、当講義では飼育10項目を含む飼育の要点である①水②種③餌料④管理を軸に現場目線で講義を展開する
到達目標	飼育現場で求められる知識を身につけることを目的とし、人間（自分）本位で押しつけるのではなく動物の立場に立ち動物目線で思考することができること、飼育に関する様々な事象に対して常に考え動物から学ぶ姿勢を持つことなど目の前にいる動物の気持ちを考え飼育管理ができる感性を持った人材になる
評価方法と基準	1）定期テスト　60% 2）授業態度及び出席率　40%

授業計画・内容

回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習　時間外学習(学習課題)
1	4/19	講義	授業の概要・目的説明、鯨類の飼育について基本的な考え方を伝えることにより今後の学習内容を把握することができる（飼育とは）	
2	4/26	講義	飼育設備の概要を学ぶ　水槽設備・飼育水の管理・濾過循環システムなどの概要を知ることができる （水-①　施設管理（概要））	準備学習：次回講義の飼育ハンドブック該当箇所の熟読 時間外学習(学習課題) ；講義内容のまとめ　資料化
3	5/10	講義	水槽設備について水槽形状・材質・カラス・アクリル・照明など水族館ならではの特性を知り飼育の側面だけではなく展示についてもその重要性を学ぶことができる（水-②　水槽設備）	準備学習：次回講義の飼育ハンドブック該当箇所の熟読 時間外学習(学習課題) ；講義内容のまとめ　資料化
4	5/17	講義	鯨類の飼育の大きな要素である飼育水の管理を学ぶ　取水方法と様々な濾過循環設備の原理を理解することができる（水-③　飼育水の管理　取水設備と濾過循環設備）	準備学習：次回講義の飼育ハンドブック該当箇所の熟読 時間外学習(学習課題) ；講義内容のまとめ　資料化
5	5/24	講義	プール用薬品注入における水槽の特殊性を知りその必要性を理解するとともに、薬注機器の原理を知り管理できるようにする（水-④　飼育水の管理　プール用薬品と薬注ポンプ）	準備学習：次回講義の飼育ハンドブック該当箇所の熟読 時間外学習(学習課題) ；講義内容のまとめ　資料化
6	5/31	講義	飼育鯨類の自然界における生息環境で重要である温度調節についての必要性と原理を理解することができる（水-⑤　飼育水の管理　温度調節装置）	準備学習：次回講義の飼育ハンドブック該当箇所の熟読 時間外学習(学習課題) ；講義内容のまとめ　資料化
7	6/14	講義	水族館における電気の重要性を知るとともに非常時の対応（動物施設・運営）を学ぶことができる（水-⑥　電気設備　非常用発電設備と自家発電設備）	準備学習：次回講義の飼育ハンドブック該当箇所の熟読 時間外学習(学習課題) ；講義内容のまとめ　資料化
8	6/21	講義	日本での飼育鯨種を知り、それらの同定方法を学ぶ　自然界でイルカに遭遇した時に識別できるようになる（種-①鯨類の同定方法（見分け方））	準備学習：次回講義の飼育ハンドブック該当箇所の熟読 時間外学習(学習課題) ；講義内容のまとめ　資料化
9	6/28	講義	鯨類の収集に関する法令を知ることができる（種-②収集に関する法令）	準備学習：次回講義の飼育ハンドブック該当箇所の熟読 時間外学習(学習課題) ；講義内容のまとめ　資料化
10	7/5	講義	イルカ類の捕獲方法、入手方法を知るとともに入手可能な鯨種を認識することができる（種-③　捕獲・収集方法）	準備学習：次回講義の飼育ハンドブック該当箇所の熟読 時間外学習(学習課題) ；講義内容のまとめ　資料化
11	7/12	講義	野生鯨類の選別・畜養・輸送について知ることができる（種-④　鯨類の輸送）	準備学習：次回講義の飼育ハンドブック該当箇所の熟読 時間外学習(学習課題) ；講義内容のまとめ　資料化
12	7/19	講義	搬入直後のイルカの初期飼育の基本である馴致について理解することができる（種-⑤　初期飼育・馴致と調教）	準備学習：次回講義の飼育ハンドブック該当箇所の熟読 時間外学習(学習課題) ；講義内容のまとめ　資料化
13	8/30	前期まとめ	前期の重要事項の復習を行うことにより、より深く理解することができるようになる　併せて試験範囲の提示も行いより意識を高めることができる	
14	9/6	試験		
15	9/13	振り返り	試験問題に関する解説を行うことでより理解度を深め、飼育環境管理の大切さ、飼育動物の入手や取扱を再認識することができる	
準備学習　時間外学習			準備学習：次回講義の飼育ハンドブック該当箇所を熟読することにより講義内での理解度を深める 時間外学習(学習課題)；講義内容を自らまとめることにより参考資料化を図る（次回講義終了時に全講義内容を確認）	

【使用教科書・教材・参考書】

日本動物園水族館協会発行「新ハンドブック水族館編」1～5・東海大学出版会「水族館の仕事」・東海大学出版会「海獣水族館」・二瓶社「うまくやるための強化の原理」 他
随時学生に紹介する

科目名	鯨類の飼育管理Ⅱ	必修選択	選択必修	年次	2	担当教員	佐伯宏美
学科・コース	エコ・コミュニケーション科　2年制　昼二	授業形態	講義演習	総時間（単位）	30 1		

教員の略歴	1975年4月～2016年6月 鴨川シーワールドに在籍　鯨類の飼育・調教・展示に従事
授業の学習内容	水族館における「素晴らしい展示」には「よい調教」が必要であり、よい調教を行うには「よい飼育」を行い健康な動物を確保することが必要であることから、すべてにおいて「飼育」が基本となる 飼育の重要性を十分に理解し、水族館での鯨類の実質的な飼育について知り理解する 「水族館学」「海洋哺乳類」とリンクするが、当講義では飼育10項目を含む飼育の要点である①水②種③餌料④管理を軸に現場目線で講義を展開する
到達目標	飼育現場で求められる知識を身につけることを目的とし、人間（自分）本位で押しつけるのではなく動物の立場に立ち動物目線で思考することができること、飼育に関する様々な事象に対して常に考え動物から学ぶ姿勢を持つことなど目の前にいる動物の気持ちを考え飼育管理ができる感性を持った人材になる
評価方法と基準	1）定期テスト　60% 2）授業態度及び出席率　40%

授業計画・内容

回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習　時間外学習(学習課題)
1	9/27	講義	ストランディング・迷入・混獲の多い鯨種を知り対応方法を知ることができる（種-⑥　ストランディング個体の対処方法）	準備学習：次回講義の飼育ハンドブック該当箇所の熟読 時間外学習(学習課題）；講義内容のまとめ　資料化
2	10/4	講義	餌料への考え方、選択、保管等基本的な考え方を学び、餌料管理の重要性を理解すことができる（餌料-①　餌料Ⅰ）	準備学習：次回講義の飼育ハンドブック該当箇所の熟読 時間外学習(学習課題）；講義内容のまとめ　資料化
3	10/11	講義	鯨類の餌料について、詳細な取り扱い及び管理を理解し、餌料管理の重要性について再認識することができる（餌料-②　餌料Ⅱ）	準備学習：次回講義の飼育ハンドブック該当箇所の熟読 時間外学習(学習課題）；講義内容のまとめ　資料化
4	10/18	講義	「NHKプロフェッショナル仕事の流儀」のDVDを見ることにより実際の現場の管理を実感することができ、以後の講義内容の重要性を知ることができる　（管理-①）	準備学習：次回講義の飼育ハンドブック該当箇所の熟読 時間外学習(学習課題）；講義内容のまとめ　資料化
5	10/25	講義	鯨類の生理を知ることにより、疾病との関連を考えられるようになる（神経系・循環器系・呼吸器系・消化器系）（管理-②　鯨類の生理Ⅰ）	準備学習：次回講義の飼育ハンドブック該当箇所の熟読 時間外学習(学習課題）；講義内容のまとめ　資料化
6	11/1	講義	鯨類の生理を知ることにより、疾病との関連を考えられるようになる（消化器系・泌尿器系・内分泌系・体温調節）（管理-③　鯨類の生理Ⅱ）	準備学習：次回講義の飼育ハンドブック該当箇所の熟読 時間外学習(学習課題）；講義内容のまとめ　資料化
7	11/8	講義	飼育条件と病気の原因、発見と診断など基本的な病気の考え方と治療、予防について理解することができる（管理-④　鯨類の病気Ⅰ）	準備学習：次回講義の飼育ハンドブック該当箇所の熟読 時間外学習(学習課題）；講義内容のまとめ　資料化
8	11/15	講義	鯨類の疾病についての詳細な原因、対応を知り、飼育現場においての疾病の発見、治療の重要性を理解し学ぶことができる（管理-⑤　鯨類の病気Ⅱ）	準備学習：次回講義の飼育ハンドブック該当箇所の熟読 時間外学習(学習課題）；講義内容のまとめ　資料化
9	11/22	講義	鯨類における血液検査内容を知り、正常値を知るとともに、検査結果のそれぞれの検査項目の関係性による読み方を学ぶことができる（管理-⑤　血液検査）	準備学習：次回講義の飼育ハンドブック該当箇所の熟読 時間外学習(学習課題）；講義内容のまとめ　資料化
10	11/29	講義	健康管理に必要な観察ポイントを理解し、異常の発見の仕方について学ぶ　　日常における動物観察がいかに重要かを理解するすることができる（管理-⑥　日常の健康管理）	準備学習：次回講義の飼育ハンドブック該当箇所の熟読 時間外学習(学習課題）；講義内容のまとめ　資料化
11	12/6	講義	繁殖の重要性を理解するとともに、繁殖の推進の仕方を学び、繁殖への理解を深めることができるようになる（管理-⑦　繁殖Ⅰ）	準備学習：次回講義の飼育ハンドブック該当箇所の熟読 時間外学習(学習課題）；講義内容のまとめ　資料化
12	12/13	講義	鯨類の繁殖を学ぶ　　また、新生児の育成について現場での知見を交えて知ることにより重要性を再認識することができるようになる（管理-⑧　繁殖Ⅱ）	準備学習：次回講義の飼育ハンドブック該当箇所の熟読 時間外学習(学習課題）；講義内容のまとめ　資料化
13	1/17	後期まとめ	後期の重要事項の復習を行うことにより、より深く理解することができるようになる　　併せて試験範囲の提示も行いより意識を高めることができる	
14	1/24	試験		
15	1/31	振り返り	試験問題に関する解説を行うことでより理解度を深め、飼育環境管理の大切さ、飼育動物の入手や取扱を再認識することができる	
準備学習　時間外学習			準備学習：次回講義の飼育ハンドブック該当箇所を熟読することにより講義内での理解度を深める 時間外学習(学習課題）；講義内容を自らまとめることにより参考資料化を図る（次回講義終了時に全講義内容を確認）	

【使用教科書・教材・参考書】
日本動物園水族館協会発行「新ハンドブック水族館編」1～5・東海大学出版会「水族館の仕事」・東海大学出版会「海獣水族館」・二瓶社「うまくやるための強化の原理」 他
随時学生に紹介する

科目名	次世代の為の環境教育Ⅰ	必修選択	選択	年次	1年生	担当教員	中川　武
学科・ｺｰｽ	エコ・コミュニケーション科　2年制　昼二	授業形態	講義	総時間（単位）	30時間（　1単位　）		
教員の略歴	青山学院大学卒、読売日本テレビ文化センター「楽しい登山教室」講師プロガイド						
授業の学習内容	世界的に環境問題の現状をどうしていくのかを広く学び私たちはそれに対してどう対処したらよいのかを考えます。 高尾の森に間伐。伐採に行くことによって森の自然を学びます 森と海の環境は繋がっていることを学び、海の環境改善に生かす。						
到達目標	色々な場面を環境自体でみられるように示します。海洋生物か環境悪化に悩まされる環境をつくりどうしたらそれを保護出来るのか考える 世界の環境を学び人に環境の大切さを伝えられるようにします。						
評価方法と基準	定期試験80% 実習評価20%　筆記試験評価						

授業計画・内容

回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習　時間外学習(学習課題)
1	4月22日	講義	世界の環境問題を学ぶ	高尾の森作りの会スタッフによる説明
2	5月6日	講義	高尾の森 実習の準備	次世代のための環境教育
3	5月13日	講義	野生生物減少 保護のCM作り	関連資料の用意
4	5月20日	講義	熱帯林の役割について	予習・復習課題
5	5月27日	講義	大きな海青い星が濁り始めた理由	海洋に関する資料送付
6	6月3日	講義	何故温暖化になってしまったか？	世界の温暖化の現状
7	6月17日	講義	暮らしとエネルギー	自分のライフスタイルとエネルギーの関係
8	6月24日	講義	ゴミの生産世界第二位の日本	身近なゴミ処理について
9	7月1日	講義	考える人　足りない食料	人と食料の関係
10	7月8日	講義	動物園と水族館の環境	ブーストック計画を学ぶ
11	7月15日	講義	動物病院とペットショップ	ワシントン条約CB,WCを学ぶ
12	7月22日	講義	収集　里山	現状をチャック
13	9月7日	講義	全ては自分に繋がっている	環境問題を人ごとにしない
14	9月16日	試験	筆記試験	予習と対策
15	9月2日	講義	項目的におさらいをする	これからの環境対策
準備学習　時間外学習				

次世代の環境教育　教科書使用

科目名	疾病と予防Ⅱ	必修選択	選択	年次	2	担当教員	鎌田みゆき
学科・コース	エコ・コミュニケーション科　2年制（昼二）	授業形態	講義	総時間（単位）	30 1		
教員の略歴	OMRCにてドルフィントレーナー、ネイチャーガイドとして勤務						
授業の学習内容	飼育現場において、“獣医師に必要とされる”および“獣医師の良きパートナーとして共に仕事ができる”スタッフは重宝される。動物にとってより良い環境を創っていけるよう、当科目では専門書、資料画像、動画などを用いた講義を主軸に鯨類の基本的な体の構造と各臓器の生理と働きについて学び、経験談を交えてハズバンダリーでの採血の模倣や解剖における作業など、実践的な練習も行う。						
到達目標	・陸棲哺乳類とは異なる体の仕組みや臓器形態について説明することができる　・就職した際に現場で即戦力となるため、採血での針の刺し方や取り上げでの担当持ち場、解剖でのアシストを行うことができる						
評価方法と基準	定期テスト　60% 授業態度（あいさつ、返事、質問、取り組み姿勢）　40%						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習　時間外学習(学習課題)
1	9月26日	講義	チームワークの重要性と円滑な人間関係を築くためのコツを学ぶ	ソーシャルスタイルを用いたブレインストーミングを行う
2	10月3日	講義	循環器（心臓）について理解し、血液循環の図説ができる	
3	10月10日	講義と演習	採血について学び、尾鰭の模型を作成してハズバンダリー採血（Ｈｂ）の練習をする	２３G翼状針、シリンジ、スピッツ管、ダンボール、ハサミ、カッター、マジックペンな
4	10月17日	講義と演習	血液データの見方について学び、検査結果を基に何の異常か予測をたてることができる	
5	10月24日	講義	生殖器（オス）の仕組みを理解し、精子採取のハズバンダリーについて学ぶ	
6	10月31日	講義	生殖器（メス）の仕組みを理解し、人工授精について学ぶ	
7	11月14日	講義	脳の構造と仕組み、各部者における役割について説明ができる	
8	11月21日	講義と演習	筋肉の付き方と運動との連動について理解する	油粘土、粘土ヘラ、ダンボールなど
9	11月28日	講義	感覚器（眼）について理解し、説明することができる	
10	12月5日	講義	感覚器（耳）について理解し、説明することができる	
11	12月12日	講義	解剖の種類を分類し、手順について学ぶ	臓器位置確認ワークシート
12	12月19日	講義	解剖時における各臓器の所見とその意味を理解する	
13	1月16日	講義	病変臓器、部位の症例を学ぶ	
14	1月23日		後期テスト	
15	1月30日	講義	ふりかえり	
準備学習　時間外学習				

【使用教科書・教材・参考書】

Atlas of the Anatomy of Dolphins and Whales、イルカの解剖学、解剖写真、標本、iphoneコネクター、スクリーン

科目名	種別生態基礎Ⅰ	必修選択	選択	年次	2	担当教員	土屋　俊郎
学科・ｺｰｽ	エコ・コミュニケーション科	授業形態	講義	総時間（単位）	30 1		
教員の略歴	東京タワー水族館から、ひかるアクアリューム、サッドアルバーリ、ハナマサ店長、南米、ドイツ、スリランカの水草を輸入						
授業の学習内容	魚という様々な特徴、生態を持つ生物を、販売・展示していく上で必要な知識を得る						
到達目標	分類ごとの特徴、生態等を覚え、それらを展示・販売促進につなげられるようになる						
評価方法と基準	筆記試験、出席率によるが、場合より、販売・展示等をクラス内発表し、その内容により評価する						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習　時間外学習(学習課題)
1		講義	カラシン類について	各魚類にどんな種が存在するのか
2		講義		
3		講義		
4		講義	チョウチョウウオ類について	
5		講義		
6		講義	キンチャクダイ類について	
7		講義		
8		講義	コイ目魚類について	
9		講義		
10		講義	カダヤシ目魚類について	
11		講義		
12		講義	スズキ目カワスズメ科について	
13		講義		
14		試験	筆記試験	
15		振り返り	振り返り、ウィークポイントを知る	
準備学習　時間外学習				

【使用教科書・教材・参考書】

科目名	水生生物Ⅰ	必修選択	選択	年次	1	担当教員	白井芳弘
学科・ｺｰｽ	エコ・コミュニケーション科2年制（昼二）	授業形態	講義	総時間（単位）	30 1		
教員の略歴	東海大学海洋学部卒　金沢水族館学芸員・あわしまマリンパーク学芸員・館長をへて、自然観察指導員として子供たちの自然教室を指導						
授業の学習内容	水族館スタッフ・ネイチャーガイド・ショップスタッフの仕事では、自然や生物の知識を得ることは大切なことですが、その知識を自分のものにして伝えることが求められます。この授業では、水生生物の分類とその特徴、そこに属する生物名を学び、さらに解剖と実験を通して生活の様子を学習します。干潟と河口の生物については実際にフィールドで観察を行い、環境に適応して生物が棲み分けを行う様子や潮汐により変化する生物の行動を観察します。						
到達目標	①各動物門の特徴と属する生物の種名を説明できる。 ②潮汐の仕組みを理解し潮汐表から任意の海岸の干潮時刻を検索できる ③干潟の環境を理解しそこに適応して生息する生物の種名をおぼえる。 ④実習で干潟の観察を行い生物の生息状況を記録し生物写真を撮影それを用いて観察記録をまとめることができる。 ⑤軟体動物の特徴と各綱に所属する生物の種名をおぼえる。 ⑥アサリの実験を行い呼吸と偽糞の観察ができ結果を記録できる。 ⑦都市の海で発生する青潮の成因を説明できる。 ⑧刺胞動物の特徴を理解し、イソギンチャクの刺胞を顕微鏡にて観察を行い顕微鏡写真の撮影ができる。						
評価方法と基準	定期試験　　80%　小テスト20% 総合試験評価：GPA（S100～90　A89～80　B79～70　C69～60　F59～0） 再試験は公欠が認められた者のみ対応する。 追試験1回　定期試験の再試験を行い、80点以上でCの評価とする。						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習　時間外学習(学習課題)
1	4月18日	講義	前期授業内容の説明からこの授業の目的を理解する、生物の分類　門・綱の特徴と名称を説明できる	飼育ハンドブックNo.3　分類を読んでおく
2	4月25日	講義	潮汐のしくみを理解し、干潮・満潮で変化する干潟の環境を説明できる	気象庁HP内の潮汐表を閲覧
3	5月9日	実習	干潟の生物の観察と採集・写真撮影を行う	フィールドでのメモと写真をノートにまとめる
4	5月16日	実習	レクチャー内容を記録する	
5	5月23日	講義	干潟実習のまとめ・写真と種名を確認する	フィールドでの記録と写真を見直しておく
6	5月30日	講義	干潟の食物連鎖（私たちとの関連）	干潟の生物の生活の方法を復習しておく
7	6月13日	講義	軟体動物門の特徴・綱の名称を説明できる	飼育ハンドブックNo.3軟体動物門を読んでおく
8	6月20日	講義	二枚貝綱の特徴と内部構造を理解し実験に応用する	飼育ハンドブックNo.3軟体動物門二枚貝綱を読んでおく
9	6月27日	講義・実験	生きたアサリの観察を行い、呼吸を観察し取り込まれた物質の排出過程を観察する	アサリの実験結果を干潟で見た自然環境に置き換え考察する
10	7月4日	講義	アサリ・マガキなどの二枚貝の生活が環境に与える影響を説明できる	二枚貝の形態を復習・アサリの実験結果・干潟の観察結果のまとめを読みなおす
11	7月11日	講義	刺胞動物の特徴	飼育ハンドブック3刺胞動物門を読んでおく
12	7月18日	講義・実験	刺胞度物（刺胞の観察）	イソギンチャクの構造、刺胞と共生藻の特徴を復習しておく
13	8月29日	講義	前期のまとめ・試験範囲の説明	前期授業のノートの見返し
14	9月5日	講義	前期試験	
15	9月12日	講義	回答と振り返り	学習した内容を自分の言葉で説明することができることを目標とする
準備学習　時間外学習			実習・実験の目的・方法を事前に確認し、終了後に結果をまとめる	

【使用教科書・教材・参考書】飼育ハンドブックNo.3　配布プリント

※指示をした時のみ、タブレット端末などでの検索を許可する。

科目名	水生生物Ⅱ	必修選択	選択	年次	1	担当教員	白井芳弘
学科・コース	エコ・コミュニケーション科2年制（昼二）	授業形態	講義	総時間（単位）	30 1		
教員の略歴	東海大学海洋学部卒　金沢水族館学芸員・あわしまマリンパーク学芸員・館長をへて、自然観察指導員として子供たちの自然教室を指導						
授業の学習内容	水族館スタッフ・ネイチャーガイド・ショップスタッフの仕事では、自然や生物の知識を得ることは大切なことですが、その知識を自分のものにして伝えることが求められます。この授業では、水生生物の分類とその特徴、そこに属する生物名を学び、さらに解剖と実験を通して生活の様子を学習します。干潟と河口の生物については実際にフィールドで観察を行い、環境に適応して生物が棲み分けを行う様子や潮汐により変化する生物の行動を観察します。						
到達目標	①各動物門の特徴と属する生物の種名を説明できる。 ②潮汐の仕組みを理解し潮汐表から任意の海岸の干潮時刻を検索できる ③干潟の環境を理解しそこに適応して生息する生物の種名をおぼえる。 ④実習で干潟の観察を行い生物の生息状況を記録し生物写真を撮影それを用いて観察記録としてのレポートを作成する。 ⑤軟体動物の特徴と各綱に所属する生物の種名をおぼえる。 ⑥アサリの実験を行い呼吸と偽糞の観察ができ結果を記録できる。 ⑦都市の海で発生する青潮の成因を説明できる。 ⑧二枚貝の解剖を行い体のしくみ名称を説明できる。 ⑨刺胞動物の特徴を理解し、イソギンチャクの刺胞を顕微鏡にて観察を行い顕微鏡写真の撮影ができる。						
評価方法と基準	実習レポート　20% 定期試験　　80% 総合試験評価：GPA（S100～90　A89～80　B79～70　C69～60　F59～0） 再試験は公欠が認められた者のみ対応する。 追試験1回　定期試験の再試験を行い、80点以上でCの評価とする。						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習　時間外学習(学習課題)
1	10月5日	講義	汽水域の自然・通し回遊・浸透圧調整	
2	10月12日	講義	マハゼの生活史	
3	10月19日	実習	実習（左近川採集）3・4限	
4				
5	11月2日	講義	左近川の生物まとめ （魚類標本の測定と写真撮影）	
6	11月9日	講義	ベンケイガニ・テナガエビの生活史	
7	11月16日	講義	ベンケイガニの生活と生体の観察	
8	11月23日	講義	棘皮動物門	
9	11月30日	講義	ウニの管足と骨片の観察	
10	12月7日	実習	実習　ナマコの解剖と骨片の観察	
11				
12	1月11日	講義	ヒトデの観察	
13	1月18日	講義	後期まとめ	
14	1月25日	試験	試験	
15	2月1日	講義	振り返り	
準備学習　時間外学習			実習・実験の目的・方法を事前に確認し、終了後に結果をまとめる	

【使用教科書・教材・参考書】 飼育ハンドブックNo.3・配布プリント

※指示をした時のみ、タブレット端末などでの検索を許可する。

科目名	水槽レイアウトⅠ	必修選択	選択	年次	1	担当教員	早坂誠
学科・ｺｰｽ	エコ・コミュニケーション科２年制（昼二）	授業形態	講義	総時間（単位）	30 1		
教員の略歴	有限会社エイチ・ツー代表取締役						
授業の学習内容	近年、自然環境を保全・維持する観点、平静な時間を求める需要に伴い、美しく管理・育成された水草水槽の需要が高まっています。今では個人宅での趣味を超えてマンション、銀行、病院などのエントランスに設置される機会も多くなりました。さらには水族館でも水草水槽が展示されるようになり、その技術が求められる時代となりつつあります。この授業では、座学と共にレイアウト実習を通して水草レイアウト水槽の制作、管理のプロフェッショナルを目指します。また、大型水槽の管理を行うことで水族館レベルの水草水槽管理の習得を目指します。　＊実際に生物を使用するため内容に変更がある場合があります。また、エントランス水槽に入り作業を行います。天候によって授業内容が変更になる場合もあります。						
到達目標	水槽空間で、美しいレイアウト構図を創ることが出来るようになる。 水草育成に最適な照明管理を行うことが出来るようになる。 草育成に最適なろ過システムの仕組みを学び、実際に使用できるようになる。 水槽内での水草育成における二酸化炭素の必要性を学び専用添加器具を実際に使用できるようになる。 水草が育成する最良の水質を学び、水槽内で調整できるようになる。 水族館と同様、大型水草水槽管理ができるようになる。						水
評価方法と基準	エントランス水槽管理実習・グラスアクアリウム制作実習　20% 定期試験８０% 筆記試験評価：GPA（S100～90　A89～80　B79～70　C69～60　F59～0） 再試験は公欠が認められた者のみ対応する。 追試験1回　同試験内容の実施、提出をもってCの評価とする。						

1A水族館アクアリスト1年　授業計画・内容

回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習　時間外学習(学習課題)
1	4月18日	講義	半期の授業内容を説明、当科目の最終目標の水槽例を確認。今後の授業を理解することができる。　作	水槽管理時に使用するホースの巻き方を実践・習得する。
2	4月25日	講義/演習	水草水槽の全体的な循環とシステムの仕組みを理解することができる。	エントランス水槽をイラスト含む解説をグループで提出することで授業内容の再確認する。
3	5月9日	実習	エントランス水草水槽管理。水底に潜り安定して作業を行う技術を身に着けることができる。	レイアウト構図の資料制作
4	5月16日	講義/実習	グラスアクアリウム制作。石・流木を使用して構図を理解し実際の水槽レイアウト制作に反映すること	グラスの選択と事前の構図案の制作
5	5月30日	講義/実習	グラスアクアリウム制作。水草を実際に植栽することで植え方を習得することができる	授業以外での水槽管理を時間外学習に充てる
6	6月6日	実習	エントランス水草水槽管理。アクリル面の掃除を実践できる。	授業以外での水槽管理を時間外学習に充てる
7	6月13日	実習	外部式フィルターの仕組みと使用方法、各部品の名称を理解し、実際に稼働させることができる。	外部式フィルターの項目を事前予習。アクアルームでの可動状態の確認
8	6月20日	講義	水草の進化と保全について理解することが出来る。国立科学博物館,植物研究部,研究主幹　田中法生	エントランス水槽内の水草について種類の同定を行い、
9	6月27日	実習	エントランス水草水槽管理。水草の剪定を実践できる。	授業以外での水槽管理を時間外学習に充てる
10	7月4日	講義	水草の生活と成長に必要な条件を記することができる。また、光合成、必須元素について説明すること	必須元素について事後復習を行う。
11	7月11日	実習	エントランス水草水槽管理。水草の植栽を実践できる。	授業以外での水槽管理を時間外学習に充てる
12	7月18日	講義	外部式フィルターを実際に分解、組み立てを行い設置から定期的な清掃方法、修理方法が実践できる。	外部式フィルターの仕組みを事後復習に充てる
13	8月29日	実習	エントランス水草水槽管理。自身の判断で現在行うべき作業を実践できる。	授業以外での水槽管理を時間外学習に充てる
14	9月5日	講義・試験	テスト内容の予習・60分の筆記試験	試験範囲からの予習と対策
15	9月12日	講義	テスト結果からの振り返りを行うことで「水草水槽の仕組み」の理解を深める	試験範囲から、誤答した箇所の復習を行い理解を深める
準備学習　時間外学習			事後学習を通じて深く学び、準備学習を行うことで授業内での学びの展開を促す。	

【使用教科書・教材・参考書】　＊指示した時のみスマートフォンなどの端末での検索を許可する。

MPJ「水草水槽のススメ」 参考資料 「デュプラジャパン理想的な水槽」

科目名	水槽レイアウトⅡ	必修選択	選択	年次	1	担当教員	早坂誠
学科・ｺｰｽ	エコ・コミュニケーション科２年制（昼二）	授業形態	講義	総時間（単位）	30 1		
教員の略歴	有限会社エイチ・ツー代表取締役						
授業の学習内容	近年、自然環境を保全・維持する観点、平静な時間を求める需要に伴い、美しく管理・育成された水草水槽の需要が高まっています。今では個人宅での趣味を超えてマンション、銀行、病院などのエントランスに設置されることも多くなりました。さらに水族館でも水草水槽が展示されるようになり、その技術が求められる時代となりつつあります。。この授業では、座学と共にレイアウト実習を通して水草レイアウト水槽の制作、管理のプロフェッショナルを目指します。また、大型水槽の管理を行うことで水族館レベルの水草水槽管理の習得を目指します。　＊実際に生物を使用するため内容に変更がある場合があります。また、エントランス水槽に潜り作業を行います。天候によって授業内容が変更になる場合もあります。						
到達目標	水槽空間で、美しいレイアウト構図を創ることが出来るようになる。 水草育成に最適な照明管理を行うことが出来るようになる。 草育成に最適なろ過システムの仕組みを学び、実際に使用できるようになる。 水槽内での水草育成における二酸化炭素の必要性を学び専用添加器具を実際に使用できるようになる。 水草が育成する最良の水質を学び、水槽内で調整できるようになる。 水族館と同様、大型水草水槽管理ができるようになる。						水
評価方法と基準	エントランス水槽管理実習・グラスアクアリウム制作実習　20% 定期試験８０% 筆記試験評価：GPA（S100～90　A89～80　B79～70　C69～60　F59～0） 再試験は公欠が認められた者のみ対応する。 追試験1回　同試験内容の実施、提出をもってCの評価とする。						

1A水族館アクアリスト1年　授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習　時間外学習(学習課題)
16	10月3日	講義/実習	二酸化炭素添加装置の必要性と仕組みを学ぶ。①	授業以外での水槽管理を時間外学習に充てる
17	10月10日	実習	二酸化炭素添加装置の必要性と仕組みを学ぶ②実際に器具に触れて、器材の使用方法を学	二酸化炭素添加器具の図面を記載する。
18	10月17日	演習	エントランス水草水槽管理。水草の植栽を実践できる。	授業以外での水槽管理を時間外学習に充てる
19	10月24日	講義	水草水槽に必要な照明について理解することができる　光について	授業以外での水槽管理を時間外学習に充てる
20	10月31日	演習	水草水槽に必要な照明について。光を目視で数値化することができるようになる	授業以外での水槽管理を時間外学習に充てる
21	11月7日	実習	湧水を再現した大型水草水槽の管理を行うことで長期維持の技術を習得することができ	授業以外での水槽管理を時間外学習に充てる
22	11月14日	講義	水草レイアウト水槽の照明についての続き水槽サイズとアクリル・ガラス水槽のサイズ	授業以外での水槽管理を時間外学習に充てる
23	11月21日	講義	水槽サイズ・ガラスとアクリルの特徴について学ぶ・ヒーターとクーラーについて学ぶ途	授業以外での水槽管理を時間外学習に充てる
24	11月28日	実習	湧水を再現した大型水草水槽の管理を行うことで長期維持の技術を習得することができる	授業以外での水槽管理を時間外学習に充てる
25	12月5日	講義	冷却と加温について学ぶ。ヒーター、クーラーについて理解を深めることができる	授業以外での水槽管理を時間外学習に充てる
26	12月12日	講義	水槽サイズに対するクーラーの計算方法を理解することができる	授業以外での水槽管理を時間外学習に充てる
27	1月9日	講義	底床の素材と特徴について理解することができる	授業以外での水槽管理を時間外学習に充てる
28	1月16日	講義	テストの予習	授業以外での水槽管理を時間外学習に充てる
29	1月23日	試験	後期試験	授業以外での水槽管理を時間外学習に充てる
30	1月30日	試験振返り	テスト結果からの振り返りを行うことで「水草水槽の仕組み」の理解を深める	授業以外での水槽管理を時間外学習に充てる
準備学習　時間外学習			事後学習を通じて深く学び、準備学習を行うことで授業内での学びの展開を促す。	

【使用教科書・教材・参考書】　＊指示した時のみスマートフォンなどの端末での検索を許可する。

MPJ「水草水槽のススメ」 参考資料「デュプラジャパン理想的な水槽」

科目名	潜水士対策講座Ⅰ	必修選択	選択	年次	1	担当教員	ココナッツ（小林）
		授業形態	講義	総時間（単位）	30 1		
学科・ｺｰｽ	エコ・コミュニケーション科２年制（昼二）						

教員の略歴	潜水士およびダイビングインストラクターとして都内ショップにて25年勤務。
授業の学習内容	水族館および水槽清掃に関わる全ての仕事に必修である国家資格の潜水士を学び、資格取得を目指す授業です。また、現実的な作業での問題点や解決策をレジャーのダイビングに置き換えて分かりやすく解説します。 授業は座学が中心ですが、実際の器材を目にしたり触れたりして理解や興味を深めます。
到達目標	国家試験である潜水士資格を取得することができる。(9/26目標) 基本的な潜水知識を増やし、実際の作業に必要なテクニックも学ぶことができる。 潜水器材に必要性を理解し、操作を出来るようになる。
評価方法と基準	定期試験ト100% 筆記試験評価：GPA（A100～90　B89～80　C79～70　D69～60　F59～0） 再試験は公欠が認められた者のみ対応する。 追試験1回　追試験の評価（60点以上）をもってDの評価とする。

授業計画・内容

回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習　時間外学習(学習課題)
1	6月17日	講義（対面）	潜水士の必要性が分かるようになる。	復習：イメージする仕事を考える
2	6月17日	講義（課題）	潜水業務について理解することができる。	予習：教科書10～62Pを読む 復習：問題集第1章1～10問
3	6月24日	講義（対面）	潜水業務の練習問題を解き慣れ、答えを導き出すことができる。	予習：教科書63～135Pを読む 復習：問題集第1章11～20問
4	6月24日	講義（課題）	送気および潜降と浮上について理解することができる。	予習：教科書138～161Pを読む 復習：問題集第2章1～10問
5	7月1日	講義（対面）	送気および潜降と浮上の練習問題を解き慣れ、答えを導き出すことができる。	予習：教科書161～191Pを読む 復習：問題集第2章11～20問
6	7月1日	講義（課題）	高気圧障害について理解することができる。	予習：教科書194～235Pを読む 復習：問題集第3章1～10問
7	7月8日	講義（対面）	高気圧障害の練習問題を解き慣れ、答えを導き出すことができる。	予習：教科書236～273Pを読む 復習：問題集第3章11～20問
8	7月8日	講義（課題）	関係法令について理解することができる。	予習：教科書276～318Pを読む 復習：問題集第4章1～10問
9	7月22日	講義（対面）	関係法令の練習問題を解き慣れ、答えを導き出すことができる。	予習：教科書318～359Pを読む 復習：問題集第4章11～20問
10	7月22日	講義（課題）	申請書を作成し、提出できる状況をつくる。	予習：必要書類を用意する 復習：不足書類を用意する
11	8月26日	講義（対面）	最新過去問での模擬試験（実力試し）	予習：教科書10～135Pを読む 復習：問題集（全4章）21～30問を解く
12	8月26日	講義（課題）	最新過去問での模擬試験（解説）	予習：教科書全体を読む 復習：問題集（全4章）31～40問
13	9月2日	講義（対面）	まとめ（前期テスト対策）	予習：問題集（全4章）41～50問 復習：問題集（全4章）51～60問
14	9月2日	試験	試験	
15	9月9日	講義（動画）	テスト結果からの振り返りを行うことで、潜水士の理解を深める	試験範囲からの復習とさらに理解を深める。

準備学習　時間外学習	事後学習を通じてより深く学び、事前学習を行うことで授業内での学びを促す

【使用教科書・教材・参考書】

・教科書（潜水士テキスト　送気調節業務特別教育用テキスト）・問題集（国家試験　潜水士　対策問題集Ⅰ）

科目名	潜水士対策講座Ⅱ	必修選択	選択	年次	1	担当教員	ココナッツ（小林）
		授業形態	講義	総時間（単位）	30 1		
学科・ｺｰｽ	エコ・コミュニケーション科２年制（昼二）						

教員の略歴	潜水士およびダイビングインストラクターとして都内ショップにて25年勤務。
授業の学習内容	水族館および水槽清掃に関わる全ての仕事に必修である国家資格の潜水士を学び、資格取得を目指す授業です。また、現実的な作業での問題点や解決策をレジャーのダイビングに置き換えて分かりやすく解説します。 授業は座学が中心ですが、実際の器材を目にしたり触れたりして理解や興味を深めます。
到達目標	国家試験である潜水士資格を取得することができる。（2/14目標） 基本的な潜水知識を増やし、実際の作業に必要なテクニックも学ぶことができる。 潜水器材に必要性を理解し、操作を出来るようになる。
評価方法と基準	定期試験ト100% 筆記試験評価：GPA（A100～90　B89～80　C79～70　D69～60　F59～0） 再試験は公欠が認められた者のみ対応する。 追試験1回　追試験の評価（60点以上）をもってDの評価とする。

授業計画・内容

回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習　時間外学習(学習課題)
1	11月20日	講義（動画）	潜水士の必要性が分かるようになる。	復習：イメージする仕事を考える
2	11月20日	講義（動画）	潜水業務について理解することができる。	予習：教科書10～62Pを読む 復習：問題集第1章1～10問
3	11月27日	講義（動画）	潜水業務の練習問題を解き慣れ、答えを導き出すことができる。	予習：教科書63～135Pを読む 復習：問題集第1章11～20問
4	11月27日	講義（動画）	送気および潜降と浮上について理解することができる。	予習：教科書138～161Pを読む 復習：問題集第2章1～10問
5	12月4日	講義（動画）	送気および潜降と浮上の練習問題を解き慣れ、答えを導き出すことができる。	予習：教科書161～191Pを読む 復習：問題集第2章11～20問
6	12月4日	講義（動画）	高気圧障害について理解することができる。	予習：教科書194～235Pを読む 復習：問題集第3章1～10問
7	12月11日	講義（動画）	高気圧障害の練習問題を解き慣れ、答えを導き出すことができる。	予習：教科書236～273Pを読む 復習：問題集第3章11～20問
8	12月11日	講義（動画）	関係法令について理解することができる。	予習：教科書276～318Pを読む 復習：問題集第4章1～10問
9	12月18日	講義（動画）	関係法令の練習問題を解き慣れ、答えを導き出すことができる。	予習：教科書318～359Pを読む 復習：問題集第4章11～20問
10	12月18日	講義（動画）	申請書を作成し、提出できる状況をつくる。	予習：必要書類を用意する 復習：不足書類を用意する
11	1月15日	講義（動画）	最新過去問での模擬試験（実力試し）	予習：教科書10～135Pを読む 復習：問題集（全4章）21～30問を解く
12	1月15日	講義（動画）	最新過去問での模擬試験（解説）	予習：教科書全体を読む 復習：問題集（全4章）31～40問
13	1月22日	講義（動画）	まとめ（前期テスト対策）	予習：問題集（全4章）41～50問 復習：問題集（全4章）51～60問
14	1月22日	試験	試験	
15	1月29日	講義（動画）	テスト結果からの振り返りを行うことで、潜水士の理解を深める	試験範囲からの復習とさらに理解を深める。
準備学習　時間外学習			事後学習を通じてより深く学び、事前学習を行うことで授業内での学びを促す	

【使用教科書・教材・参考書】

・教科書（潜水士テキスト　送気調節業務特別教育用テキスト）・問題集（国家試験　潜水士　対策問題集Ⅰ）

科目名	動物の健康管理Ⅰ	必修選択	選択	年次	1	担当教員	黒葛原
		授業形態	講義	総時間（単位）	30 1		
学科・ｺｰｽ	エコ・コミュニケーション科　2年制　昼二						

教員の略歴	TCA卒業後ドルフィントレーナーとしてふれあい施設に勤務、現在は(株)MMSを設立、ダイビングショップ・潜水作業を運営する
授業の学習内容	①水族館等で扱われている海洋哺乳類について知り、その生態や特徴、飼育管理に必要な事を学び理解することができる。②水族館、ふれあい施設をはじめその他マリン業界や動物園業界等様々な方向性の中でどのように自分は関わりたいのか、その上では何が必要なのかを見極め、考えていくことができる。③授業手法は主に「講義」「筆記」「パワーポイント資料」で展開。④後半はグループワークを行い授業で学んだ事を人前で発表する事で、コミュニケーション力の向上と学びのアウトプットをすることができる。
到達目標	①水族館やふれあい施設等において動物の飼育・管理に関わる上で、扱われている海洋哺乳類の基礎的な生態、健康管理に必要な知識を中心に身につけ実践に役立てることができる。②水族館・マリン業界を始め、海に関わる仕事内容を知り理解することができる。③座学や業界実習を重ね、二年時に上がる上である程度の方向性を確立できる。④『人前で話す力、人に伝える力などのコミュニケーション力　』を身につけることができる。
評価方法と基準	プレゼンテーション(グループ発表）70%　　出席率・受講姿勢＆小テスト取り組み　30%

授業計画・内容

回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習　時間外学習(学習課題)
1	4月16日	オリエンテーション	授業の概要・目的説明・目標設定・自己紹介	/最も印象に残った自己紹
2	4月23日	講義	海の哺乳類Ⅰ(鯨類)	発表/ミニテスト勉強
3	5月7日	講義	海の哺乳類Ⅱ(鰭脚類)	ミニテスト/ミニテスト勉強
4	5月16日	実習	伊豆ドルフィンファンタジー実習(A)	事前学習/レポート
4	5月23日	実習	伊豆ドルフィンファンタジー実習(B)	事前学習/レポート
5	5月21日	講義	海の哺乳類Ⅲ(海牛類)	ミニテスト/ミニテスト勉強
6	6月4日	講義	海の哺乳類Ⅳ(その他の海洋哺乳類)	ミニテスト/ミニテスト勉強
7	6月18日	講義	海の鳥類	ミニテスト/ミニテスト勉強
8	6月25日	講義	餌料Ⅰ	主に使用される魚種の選別
9	7月2日	講義	餌料Ⅱ	ミニテスト/ミニテスト勉強
10	7月9日	講義	グループ分け・テーマ決め・企画書について	グループ作業進める
11	7月16日	講義・演習	企画書作成・役割・構成を考え決める	グループ作業進める
12	8月20日	講義・演習	休み中の作業の確認＆すり合わせ	グループ作業進める
13	8月27日	講義・演習	リハーサル、時間配分・備品確認	リハ・必要な備品の申請
14	9月3日	試験	プレゼンテーション発表	自身と他グループの評価をする
15	9月10日	振り返り	試験総評＆後期に向けて	総評
準備学習　時間外学習				

【使用教科書・教材・参考書】

指示した時のみ端末やタブレットの使用を許可する。その他必要資料は授業内で配布

科目名	動物の体のしくみⅠ	必修選択	選択	年次	1	担当教員	藤田智子
学科・ｺｰｽ	エコ・コミュニケーション科　２年制　昼二	授業形態	講義	総時間（単位）	30 1		
教員の略歴	農獣医学部卒業後、千葉県鴨川シーワールド入社。海獣飼育員として勤務。						
授業の学習内容	基本的な動物の体の構造や骨格、生理的な知識を学ぶ。						
到達目標	飼育環境の改善、体調不良の原因を考えられるようになれば良い						
評価方法と基準	定期試験　80% 授業態度　20%						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習　時間外学習(学習課題)
1	4月17日	講義	ガイダンス	テキスト・ノート確認
2	4月24日	講義	表皮・真皮を説明できる。	テキスト・ノート確認
3	5月8日	講義	末端血流について説明できる。	テキスト・ノート確認
4	5月15日	講義	乳腺について説明できる。	テキスト・ノート確認
5	5月22日	講義	動物の表皮について説明できる。	テキスト・ノート確認
6	6月5日	講義	汗、体温調節について説明できる。	テキスト・ノート確認
7	6月12日	講義	体毛について説明できる。	テキスト・ノート確認
8	6月19日	講義	食事、栄養について説明できる。	テキスト・ノート確認
9	6月26日	講義	栄養成分について説明できる。	テキスト・ノート確認
10	7月3日	講義	海獣の食事について説明できる。	テキスト・ノート確認
11	7月10日	講義	咽頭と喉頭の違いについて説明できる。	テキスト・ノート確認
12	7月17日	講義	鯨類の咽頭・喉頭・食道について説明できる。	テキスト・ノート確認
13	8月28日	講義	前期の授業内容をまとめ、説明できる。	
14	9月4日	試験	筆記試験	
15	9月11日	講義	振り返り	
準備学習　時間外学習				

【使用教科書・教材・参考書】
JESC動物の体のしくみ

科目名	動物の体のしくみⅡ	必修選択	選択	年次	1	担当教員	藤田智子
		授業形態	講義	総時間（単位）	30 1		
学科・ｺｰｽ	エコ・コミュニケーション科　２年制　昼二						
教員の略歴	農獣医学部卒業後、千葉県鴨川シーワールド入社。海獣飼育員として勤務。						
授業の学習内容	基本的な動物の体の構造や骨格、生理的な知識を学ぶ。						
到達目標	飼育環境の改善、体調不良の原因を考えられるようになれば良い						
評価方法と基準	定期試験　80% 授業態度　20%						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習　時間外学習(学習課題)
1	10月2日	講義	胃のはたらきについて説明できる	テキスト・ノート確認
2	10月9日	講義	肝臓、胆のう、すい臓の分泌物について説明できる。	テキスト・ノート確認
3	10月16日	講義	腎臓のはたらきを説明できる。	テキスト・ノート確認
4	10月23日	講義	腎臓のはたらきを説明できる。	テキスト・ノート確認
5	10月30日	講義	気管・気管支・肺のはたらきを説明できる。	テキスト・ノート確認
6	11月6日	講義	生殖器のつくりを説明できる。	テキスト・ノート確認
7	11月13日	講義	生殖器のつくりを説明できる。	テキスト・ノート確認
8	11月20日	講義	生殖器のつくりを説明できる。	テキスト・ノート確認
9	11月27日	講義	骨格のつくりを説明できる。	テキスト・ノート確認
10	12月4日	講義	骨格のつくりを説明できる。	テキスト・ノート確認
11	12月11日	講義	頭蓋骨と耳骨を説明できる。	テキスト・ノート確認
12	12月18日	講義	眼球を説明できる。	テキスト・ノート確認
13	1月15日	試験	まとめ	
14	1月24日	講義	筆記試験	
15	1月31日	講義	振り返り	
準備学習　時間外学習				

【使用教科書・教材・参考書】
JESC動物の体のしくみ

科目名	コンピューター演習Ⅰ	必修選択	必修	年次	1	担当教員	BSC
学科・ｺｰｽ	エコ・コミュニケーション科　2年制（昼二）	授業形態	演習	総時間（単位）	30 1		
教員の略歴	滋慶学園グループの複数の学校で、学生や教職員に向けたパソコンスキル教育を実施						
授業の学習内容	・ITリテラシー　・メールマナー ・Wordビジネス文章作成　・インターンシップの報告書の作成 ・Excel表計算、グラフ作成						
到達目標	・新しいテクノロジーや情報を扱うための基礎的な知識や注意点を理解し、正しく活用できる ・マナーを守ってメールを作成できる　・Wordを利用し、複合文書を作成できる ・表計算や表、グラフの作成（Excel）ができる						
評価方法と基準	定期試験では、パソコンを使用した実技試験をおこない、授業で学んだPC操作の定着度を確認する 評価は通常点(40点)と期末テスト(60点)の合計100点満点でおこない、学則規定に準ずる						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習　時間外学習(学習課題)
1	4月17日	演習	講座を受講する意義を理解し、PCの基本操作ができる	インターネット上の イーラーニングテキストで 操作手順を確認し、 練習を繰り返し操作を定着させる 講義日程は、 2024年3月29日時点の内容のため、 今後変更の可能性があります アナウンスをご確認下さい
2	4月24日	演習	ITリテラシーについて正しく理解する	
3	5月8日	演習	Officeソフトを授業で使用する準備ができる Wordの基本的な内容を学ぶ	
4	5月15日	演習	受け取り手に好印象を与えるメールのマナーを知り、メール機能を使いこなすことができる	
5	5月22日	演習	文書作成ソフトを使って、効率的にビジネス文書を作ることができる	
6	6月5日	演習	画像や図形を駆使した文書を作成できる	
7	6月12日	演習	表を駆使した文書を作ることができる	
8	6月19日	演習	インターンシップの報告書を作成する準備ができる	
9	6月26日	演習	表計算ソフトの基本操作ができる 後期発表資料のシナリオを作ることができる	
10	7月3日	演習	企業や施設が求める表計算ソフトの操作ができる	
11	7月10日	演習	関数を駆使した資料を作成できる	
12	7月17日	演習	グラフを駆使した資料を作成できる	
13	8月28日	演習	Excel基礎で習ったことを実践できる	
14	9月4日	演習	Excel試験問題の実施	
15	9月11日	演習	前期の振り返り	
準備学習　時間外学習				
【使用教科書・教材・参考書】				
コンピューターキャリアトレーニング（e-learningテキスト）				

科目名	コンピューター演習Ⅱ	必修選択	選択	年次	1	担当教員	BSC
学科・ｺｰｽ	エコ・コミュニケーション科　2年制（昼二）	授業形態	演習	総時間（単位）	30 1		
教員の略歴	滋慶学園グループの複数の学校で、学生や教職員に向けたパソコンスキル教育を実施						
授業の学習内容	・プレゼンテーション資料を作成して発表する						
到達目標	・PowerPointを使用したプレゼンテーション資料を作成し、発表できる						
評価方法と基準	定期試験では、パソコンを使用した実技試験をおこない、授業で学んだPC操作の定着度を確認する 評価は通常点(40点)と期末テスト(60点)の合計100点満点でおこない、学則規定に準ずる ＜通常点について＞ 9-10回目のPowerPoint発表回は、いずれかの回で発表をした場合に通常点を付与 実習等で公欠予定の方は、出席できる回で優先的に発表可能						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習　時間外学習(学習課題)
1		演習	必要な情報をインターネットで検索したり、ファイル・フォルダの仕組みを理解して操作したりすることができる	インターネット上の イーラーニングテキストで 操作手順を確認し、 練習を繰り返し操作を定着させる
2		演習	スライド作成の基本的な操作ができる	
3		演習	PowerPointを使用し、紙芝居を作成できる	
4		演習	何を伝えるかを簡潔に示したスライド作成の設計ができる	
5		演習	レイアウト、配色等、デザインに考慮した図解を作成できる	
6		演習	表の活用・図表の効果的な表現をすることができる	
7		演習	訴求力のある発表資料を作成する	
8		演習	フォントや配色などを工夫して見やすいスライドに編集する、スライドを完成する	
9		演習	作成したスライドを使って発表できる（1）	
10		演習	作成したスライドを使って発表できる（2）	
11		演習	PowerPoint基礎で習ったことを実践できる	
12		演習	PowerPoint定期試験	
13		演習	後期の振り返り	
14		演習	AIに関する正しい情報や知識を身につけて、適正かつ有効に活用できる	
15		演習	データを読み解くための基本的な知識を身につけて、適正かつ有効に活用できる	
準備学習　時間外学習				

【使用教科書・教材・参考書】

コンピューターキャリアトレーニング（e-learningテキスト）

科目名	ドッグトレーニング演習ＡⅠ	必修選択	選択	年次	1	担当教員	安齋裕己
学科・ｺｰｽ	エコ・コミュニケーション科2年制（昼二）	授業形態	演習	総時間（単位）	60 2		
教員の略歴	1989年　Dog Training Club PURE GOLD 開業　　元埼玉県警嘱託警察犬訓練士						
授業の学習内容	犬のトレーニングに必要な基礎知識を理解するための講義と、実際に犬を使った演習を行うことによりより深くトレーニングを理解する授業です。 身がしっかりとトレーニングを理解する事により、犬が理解しやすいトレーニングを習得します。 犬を使ったトレーニングを行う授業のため、内容に変更のある場合があります。						
到達目標	犬の本能を利用したトレーニング方法を使い、基本動作を犬に教えることが出来る。 期及び、進級後に備えアマチュアにトレーニング方法を理解しやすく説明出来る様になる。						
評価方法と基準	・定期試験（筆記試験）　60% 講義・演習中の態度及び、トレーニング成果　40%						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習　時間外学習(学習課題)
1		講義・演習	担当犬の理解（実際に犬と接することにより、性格を読み取り、犬具の装・脱着が出来	学校飼育犬及び、担当犬の管理
2		講義・演習	招呼（呼び戻し）を教えることが出来る	学校飼育犬及び、担当犬の管理
3		講義・演習	正しいポジションへの招呼を教えることが出来る	学校飼育犬及び、担当犬の管理
4		講義・演習	喜求的招呼を教えることが出来る	学校飼育犬及び、担当犬の管理
5		講義・演習	声符・視符を正しく使うことが出来る	学校飼育犬及び、担当犬の管理
6		講義・演習	停座を教えることが出来る	学校飼育犬及び、担当犬の管理
7		講義・演習	停座及び招呼を教えることが出来る	学校飼育犬及び、担当犬の管理
8		講義・演習	ハウスを教えることが出来る	学校飼育犬及び、担当犬の管理
9		講義・演習	伏臥を教えることが出来る	学校飼育犬及び、担当犬の管理
10		講義・演習	JKC家庭犬訓練試験の規定を理解する	学校飼育犬及び、担当犬の管理
11		講義・演習	脚側行進の基礎を教えることが出来る	学校飼育犬及び、担当犬の管理
12		講義・演習	脚側行進の基礎を教えることが出来る	学校飼育犬及び、担当犬の管理
13		講義・演習	脚側行進の応用を教えることが出来る	学校飼育犬及び、担当犬の管理
14		**講義・試験**	試験（筆記試験）	学校飼育犬及び、担当犬の管理
15		**講義・演習**	前期の講義と演習を振り返り、総合的な理解を深める	学校飼育犬及び、担当犬の管理
準備学習　時間外学習			学校飼育犬の飼育当番及び観察で充当	

【使用教科書・教材・参考書】

科目名	ドッグトレーニング演習ＣＩ	必修選択	選択	年次	2	担当教員	安齋裕己
学科・ｺｰｽ	エコ・コミュニケーション科2年制（昼二）	授業形態	演習	総時間（単位）	60 2		
教員の略歴	1989年　Dog Training Club PURE GOLD 開業　　元埼玉県警嘱託警察犬訓練士						
授業の学習内容	犬のトレーニングに必要な基礎知識を理解するための講義と、実際に犬を使った演習を行うことによりより深くトレーニングを理解する授業です。 身がしっかりとトレーニングを理解する事により、犬が理解しやすいトレーニングを習得します。 犬を使ったトレーニングを行う授業のため、内容に変更のある場合があります。						
到達目標	犬の本能を利用したトレーニング方法を使い、基本動作を犬に教えることが出来る。 期及び、就職に備えアマチュアにトレーニング方法を理解しやすく説明出来る様になる。						
評価方法と基準	・定期試験（筆記試験）　60% 講義・演習中の態度及び、トレーニング成果　40%						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習　時間外学習(学習課題)
1		講義・演習	担当犬の理解　稟性と性格	学校飼育犬及び、担当犬の管理
2		講義・演習	JKC家庭犬訓練試験の規定を理解する	学校飼育犬及び、担当犬の管理
3		講義・演習	称呼の確実性を高める	学校飼育犬及び、担当犬の管理
4		講義・演習	喜求的招呼を教えることが出来る	学校飼育犬及び、担当犬の管理
5		講義・演習	脚側行進の基礎を教えることが出来る	学校飼育犬及び、担当犬の管理
6		講義・演習	停座及び招呼を教えることが出来る	学校飼育犬及び、担当犬の管理
7		講義・演習	伏臥・立止を教えることが出来る	学校飼育犬及び、担当犬の管理
8		講義・演習	ハウスを教えることが出来る	学校飼育犬及び、担当犬の管理
9		講義・演習	脚側行進の応用を教えることが出来る	学校飼育犬及び、担当犬の管理
10		講義・演習	脚側行進の応用を教えることが出来る	学校飼育犬及び、担当犬の管理
11		講義・演習	行進及び停座を教えることが出来る	学校飼育犬及び、担当犬の管理
12		講義・演習	行進中の停座・伏臥を教えることが出来る	学校飼育犬及び、担当犬の管理
13		講義・演習	遠隔の基本姿勢を教えることが出来る	学校飼育犬及び、担当犬の管理
14		講義・試験	試験（筆記試験）	学校飼育犬及び、担当犬の管理
15		講義・演習	前期の講義と演習を振り返り、総合的な理解を深める	学校飼育犬及び、担当犬の管理
準備学習　時間外学習			学校飼育犬の飼育当番及び観察で充当	

【使用教科書・教材・参考書】

科目名	動物の体のしくみⅠ	必修選択	選択	年次	1	担当教員	江尻
学科・コース	エコ・コミュニケーション科2年制（昼二）	授業形態	講義	総時間（単位）	30 1		
教員の略歴	愛玩動物看護師　　複数の動物病院にて勤務経験あり						
授業の学習内容	様々な動物種の体の仕組みや生態を知り、理解することで、正しい飼育方法や看護などのアドバイスを行う事が出来るようになります。　これらの知識を正しく理解し習得する事で、他者（飼い主様等）との情報共有やアドバイスが的確に行えるようになるため、コミュニケーション能力も習得出来る事が本授業の特徴です。						
到達目標	1）動物に対する観察技術を習得する事が出来る。 2）動物の健康管理が出来る。						
評価方法と基準	1）定期試験60％（14週目に筆記試験を実施） 2）小テスト30％（12週目に実施） 3）出席数・授業中の態度10％（授業内での質問に対し、積極的に発言が出来る等）						

回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習　時間外学習(学習課題)
1	4月15日	講義	骨格系（様々な動物の骨格の違いを習得する事が出来る）	動物看護の教材等を熟読し、予習・復習を行う事で知識を習得する事が出来る
2	4月22日	講義	骨格系（様々な動物の骨格の違いを習得する事が出来る）	動物看護の教材等を熟読し、予習・復習を行う事で知識を習得する事が出来る
3	5月13日	講義	消化器系（様々な動物の消化器系の違いを習得する事が出来る）	動物看護の教材等を熟読し、予習・復習を行う事で知識を習得する事が出来る
4	5月20日	講義	消化器系（様々な動物の消化器系の違いを習得する事が出来る）	動物看護の教材等を熟読し、予習・復習を行う事で知識を習得する事が出来る
5	5月27日	講義	消化器系（様々な動物の消化器系の違いを習得する事が出来る）	動物看護の教材等を熟読し、予習・復習を行う事で知識を習得する事が出来る
6	6月3日	講義	消化器系（様々な動物の消化器系の違いを習得する事が出来る）	動物看護の教材等を熟読し、予習・復習を行う事で知識を習得する事が出来る
7	6月10日	講義	消化器系（様々な動物の消化器系の違いを習得する事が出来る）	動物看護の教材等を熟読し、予習・復習を行う事で知識を習得する事が出来る
8	6月17日	講義	循環器系（様々な動物の循環器系の違いを習得する事が出来る）	動物看護の教材等を熟読し、予習・復習を行う事で知識を習得する事が出来る
9	6月24日	講義	循環器系（様々な動物の循環器系の違いを習得する事が出来る）	動物看護の教材等を熟読し、予習・復習を行う事で知識を習得する事が出来る
10	7月1日	講義	循環器系（様々な動物の循環器系の違いを習得する事が出来る）	動物看護の教材等を熟読し、予習・復習を行う事で知識を習得する事が出来る
11	7月8日	講義	循環器系（血液の機能について習得する事が出来る）））	動物看護の教材等を熟読し、予習・復習を行う事で知識を習得する事が出来る
12	7月22日	講義	循環器系（血液について習得する事が出来る） 小テスト（各単元の理解度を筆記試験にて行う。）	動物看護の教材等を熟読し、予習・復習を行う事で知識を習得する事が出来る
13	8月26日	講義	小テスト解答・解説（自己の理解度を確認し、復習する事で知識を習得する事が出来る）	動物看護の教材等を熟読し、予習・復習を行う事で知識を習得する事が出来る
14	9月2日	試験	前期期末試験（筆記試験）	動物看護の教材等を熟読し、予習・復習を行う事で知識を習得する事が出来る
15	9月9日	講義	振り返り（答案用紙の返却・解答をして、出来なかったところを正しく習得する事が出来る。	動物看護の教材等を熟読し、予習・復習を行う事で知識を習得する事が出来る
準備学習　時間外学習			自主学習で充当	

【使用教科書・教材・参考書】

動物看護の教科書（緑書房）等・・配布プリント等

科目名	ドッグビジネスⅠ	必修選択	選択	年次	1	担当教員	今村真也
		授業形態	講義	総時間（単位）	30 1		
学科・コース	エコ・コミュニケーション科2年制（昼二）						

教員の略歴	福岡工業大学卒・株式会社withdog.jp代表取締役
授業の学習内容	5世帯に1世帯が犬をペットとして飼っている日本の現状において、本専攻学生が卒業後に果たす役割は業界のみならず、社会全体にとっても大きくなっている。そのスキルを最大限に生かすためには、飼い主の持つ「マインド」を理解し、専門知識と経験を飼い主や顧客に効率的・効果的に伝える方法を習得することが有効である。その力量を持つ業界を担う人材の育成のため、飼い主に伝える知識の習得と飼い主とのコミュニケーションスキル向上を目的とする他、ドッグイベントの運営方法や独立、起業についても学ぶ。
到達目標	専門家としてのスキルを最大限いかすべく、以下の能力の形成を目標とする。 1）飼い主が犬と暮らす上でもつ、疑問や問題に回答出来る知識力 2）犬についての知識や経験を正確に伝えるコミュニケーション能力 3）飼い主と犬を客観的に判断するための観察力 4）自己のトレーニング能力を個別の案件に対応させる想像力
評価方法と基準	定期試験100% 筆記試験評価：GPA（S100～90　A89～80　B79～70　C69～60　F59～0） 再試験は公欠が認められた者のみ対応する。 追試験の提出をもってCの評価とする。

授業計画・内容

回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習　時間外学習(学習課題)
1	4月18日	講義	半期の授業内容を説明し、当科目の明確な学びの目的、目標、方法を理解することができる。	学校犬の飼育当番を時間外学習に充当する
2	4月25日	講義	ペット業界の現状、保護活動の実態について知ることが出来る	学校犬の飼育当番を時間外学習に充当する
3	5月9日	講義	ペット業界で働く上での必要な知識やスキル、独立、起業をするために必要な知識やスキルを理解することが出来る	学校犬の飼育当番を時間外学習に充当する
4	5月16日	講義	ドッグイベントを開催する目的やドッグイベントの運営方法を理解することが出来る。	学校犬の飼育当番を時間外学習に充当する
5	5月23日	講義	「犬は家族の一員」という近年いわれるようになった背景とその現状を理解する	学校犬の飼育当番を時間外学習に充当する
6	5月30日	講義	それぞれの犬種の持つ特徴を理解し、飼い主が持つイメージとのギャップを理解する。	学校犬の飼育当番を時間外学習に充当する
7	6月13日	講義	飼い主が知っておいた方がよいレベルの犬の体と能力を確認し、基本的な質問等に答えられるようにする。	学校犬の飼育当番を時間外学習に充当する
8	6月20日	講義	犬の本能と習性を学び、「飼い主が犬と暮らす」ために必要な知識の理解と飼い主への適切なアドバイス方法を学習する。	学校犬の飼育当番を時間外学習に充当する
9	6月27日	講義	犬の日常の健康状態のチェック方法や怪我の応急処置、初期の対応方法を理解し、飼い主への適切なアドバイスが行えるようになる	学校犬の飼育当番を時間外学習に充当する
10	7月4日	講義	ワクチンによって予防できる感染症の知識を深める。	学校犬の飼育当番を時間外学習に充当する
11	7月11日	講義	ノミやダニ、皮膚病などの犬の病気。避妊去勢に関しての知識を深める。	学校犬の飼育当番を時間外学習に充当する
12	7月18日	講義	犬を取り巻く環境。犬に関する法律関係の理解を深める。	学校犬の飼育当番を時間外学習に充当する
13	7月25日	講義	犬の迎え方について飼い主に説明出来るようになる	学校犬の飼育当番を時間外学習に充当する
14	8月1日	試験	60分の筆記試験	試験範囲からの予習と対策
15	8月8日	講義	テスト結果の振り返りを行うことでこの講義の理解をさらに深める	試験範囲の復習を行う
準備学習　時間外学習			事後学習を通じてより深く学び、事前学習を行うことで授業内での学びの展開を促す	

【使用教科書・教材・参考書】

随時配布する資料

科目名	ドッグビジネスⅡ	必修選択	選択	年次	1	担当教員	今村真也
学科・コース	エコ・コミュニケーション科2年制（昼二）	授業形態	講義	総時間（単位）	30 1		
教員の略歴	福岡工業大学卒。株式会社withdog.jp代表取締役						
授業の学習内容	5世帯に1世帯が犬をペットとして飼っている日本の現状において、本専攻学生が卒業後に果たす役割は業界のみならず、社会全体にとっても大きくなっている。そのスキルを最大限に生かすためには、飼い主の持つ「マインド」を理解し、専門知識と経験を飼い主や顧客に効率的・効果的に伝える方法を習得することが有効である。その力量を持つ業界を担う人材の育成のため、飼い主に伝える知識の習得と飼い主とのコミュニケーションスキル向上を目的とする他、ドッグイベントの運営方法や独立、起業についても学ぶ。						
到達目標	専門家としてのスキルを最大限いかすべく、以下の能力の形成を目標とする。 1）飼い主が犬と暮らす上でもつ、疑問や問題に回答出来る知識力 2）犬についての知識や経験を正確に伝えるコミュニケーション能力 3）飼い主と犬を客観的に判断するための観察力 4）自己のトレーニング能力を個別の案件に対応させる想像力						
評価方法と基準	定期試験50% MC台本発表50% 筆記試験評価：GPA（S100～90　A89～80　B79～70　C69～60　F59～0） 再試験は公欠が認められた者のみ対応する。 追試験の提出をもってCの評価とする。						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習　時間外学習(学習課題)
1	9月26日	講義	ペット業界がどういう人材を必要としているのかを理解し、就職活動に活かすことが出来る	学校犬の飼育当番を時間外学習に充当する
2	10月3日	講義	人材マネジメントを学び、『人を動かす』立場になった際の心構えやスキルを理解することが出来	学校犬の飼育当番を時間外学習に充当する
3	10月10日	講義	散歩の効用について学び飼い主に適切なアドバイスが出来るようになる。	学校犬の飼育当番を時間外学習に充当する
4	10月17日	実習	実際に学校犬を使用し、飼い主との絆を深める散歩方法を身につけ、飼い主にアドバイスが出来るようになる。	学校犬の飼育当番を時間外学習に充当する
5	10月24日	講義	行政が求めるマナー啓発について理解することが出来る	学校犬の飼育当番を時間外学習に充当する
6	10月31日	講義	これから求められる新しいペット業界の課題、保護活動の取り組みが理解出来る	学校犬の飼育当番を時間外学習に充当する
7	11月14日	講義	飼い主の相談にどう対応し、どう答えていくかをプロとして身につける	学校犬の飼育当番を時間外学習に充当する
8	11月21日	講義	飼い主の相談にどう対応し、どう答えていくかをプロとして身につける	学校犬の飼育当番を時間外学習に充当する
9	11月28日	講義	MC台本の作成方法を学び、しつけ教室、セミナーに必要な台本の構成力を身につける。	学校犬の飼育当番を時間外学習に充当する
10	12月5日	講義	与えられたテーマに沿ったMC台本を作成出来るようになる。	学校犬の飼育当番を時間外学習に充当する
11	12月12日	講義	MC台本発表。しつけ教室、セミナー開催が出来るようになる。	学校犬の飼育当番を時間外学習に充当する
12	12月19日	講義	MC台本発表。しつけ教室、セミナー開催が出来るようになる。	学校犬の飼育当番を時間外学習に充当する
13	1月16日	講義	1年間の授業内容の復習を行い、ドッグビジネスの理解を深める。	学校犬の飼育当番を時間外学習に充当する
14	1月23日	試験	60分の筆記試験	試験範囲からの予習と対策
15	1月30日	講義	テスト結果の振り返りを行うことでこの講義の理解をさらに深める	試験範囲の復習を行う
準備学習　時間外学習			事後学習を通じてより深く学び、事前学習を行うことで授業内での学びの展開を促す	

【使用教科書・教材・参考書】

随時配布する資料

科目名	動物関連法規Ⅰ	必修選択	必修	年次	2	担当教員	狩野恵子
学科・コース	エコ・コミュニケーション科2年制（昼二）	授業形態	講義・演習	総時間（単位）	45 1		
教員の略歴	麻布大学大学院　動物応用科学修士・JAHA認定家庭犬しつけインストラクター						
授業の学習内容	近年動物福祉の機運が高まり、動物関連法規は改正が繰り返し行われ、罰則も強化されている それに伴い、ドッグトレーナーも自身のトレーニング方法や飼い主への指導が法令に違反していないか問われている 前期では、ドッグトレーナーに一番身近な「動物の愛護及び管理に関する法律」を中心に事例を交えながら学習していく また、グループワークを行い課題を解決していく						
到達目標	①法令の基準となる動物福祉を理解する ②「動物の愛護及び管理に関する法律」を知り理解する ③法律を応用してドッグトレーナーとして何が出来るかグループワークを通し問題解決能力を養う						
評価方法と基準	定期試験70% グループワークでの発言や積極的態度30%						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習　時間外学習(学習課題)
1	4月16日	講義	動物関連法規の必要性	卒業後の仕事と法律を関連付けるため 進路を真剣に考える
2	4月23日	講義・演習	法律の土台となる「5つの自由」	「動物の愛護及び管理に関する法律」に 関する記事をピックアップしておく
3	5月7日	講義	「動物の愛護及び管理に関する法律」概要	
4	5月14日	講義	第一種動物取扱業	
5	5月21日	演習	ペットショップについて グループワーク	
6	6月4日	演習	犬へのネグレクトについて グループワーク	
7	6月11日	講義	第二種動物取扱業	
8	6月18日	講義	飼い主の責務	
9	6月25日	演習	犬への身体的虐待について グループワーク	
10	7月2日	演習	不妊去勢問題について グループワーク	
11	7月9日	講義	多頭飼育	
12	7月16日	演習	多頭飼育崩壊について グループワーク	
13	8月27日	講義	前期まとめ	試験範囲の復習
14	9月3日	試験	試験	
15	9月10日	講義	試験振り返り	理解の確認
準備学習　時間外学習				

【使用教科書・教材・参考書】

科目名	動物関連法規Ⅱ	必修選択	選択必修	年次	2	担当教員	狩野恵子
学科・コース	エコ・コミュニケーション科2年制（昼二）	授業形態	講義・演習	総時間（単位）	30 1		
教員の略歴	麻布大学大学院　動物応用科学修士・JAHA認定家庭犬しつけインストラクター						
授業の学習内容	「動物の愛護及び管理に関する法律」以外の動物関連法規を学ぶ また実際の裁判例や海外の法令も学び比較していく 動物愛護センターの見学						
到達目標	①幅広く動物関連法規について理解する ②海外と日本の法律の違いを理解し、今後日本の法律には何が必要なのか考える ③動物愛護センターの見学を通し、保護動物について考える						
評価方法と基準	定期試験70% グループワークでの発言や積極的態度30%						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習　時間外学習(学習課題)
1	10月1日	講義	日本の動物愛護センターの役割	①それぞれの法令について、関連する記事をピックアップしておく ②動物愛護センター見学後は、レポート提出
2	10月8日	演習	殺処分減少について グループワーク	
3	10月15日	講義	海外のアニマルシェルター	
4	10月22日	講義	狂犬病予防法	
5	10月29日	講義	身体障害者補助犬法	
6	11月5日	演習	身体障害者補助犬法について グループワーク	
7	11月12日	講義	災害時の法律	
8	11月19日	演習	避難所の課題について グループワーク	
9	11月26日	講義	動物実験法	
10	12月3日	講義	ペット裁判例①	
11	12月10日	講義	ペット裁判例②	
12	12月17日	講義	海外の動物関連法規	
13	1月21日	講義	後期まとめ	試験範囲の復習
14	1月28日	試験	試験	
15	2月4日	講義	試験振り返り	理解の確認
準備学習　時間外学習				

【使用教科書・教材・参考書】

科目名	コミュニケーションスキルアップⅠ	必修選択	必修	年次	1	担当教員	中村美穂
学科・ｺｰｽ	エコ・コミュニケーション科2年制（昼二）	授業形態	講義	総時間（単位）	30 1		
教員の略歴	IT企業にてエンジニア、人事部門での教育、採用を経験後、独立。現在は、研修講師、キャリアカウンセラーとして従事。						
授業の学習内容	動物の飼育をしていく上で、一緒に働く人やお客様など関係する人たちと円滑にコミュニケーションがとれると、仕事が円滑に進みます。 この授業では、コミュニケーションについて、知識の理解だけでなく、体験を通じてコミュニケーションのコツやスキルを学びます。また、実習や研修に向けたビジネスコミュニケーションを学びます。学んだことを身につけ定着するため、飼育当番等学校内に加えアルバイト、プライベートでも自ら意識的に実践していくことが必須です。「クラスの仲間との関係つくり」から「実習先、社会人に向け必要な振る舞い」の力を身につけることを目指します。						
到達目標	・コミュニケーションの基本である、「聴く」「伝える」のポイントが実践できる。 ・人と協働するために必要な行動を理解し、実践できる。 ・社会人として必要なビジネスマナーを理解し、使えるようになる。 ・自分自身の特徴を知り、自己表現ができるようになる。 ・他者と自分自身の違いを知り、お互いを尊重しようとなる。						
評価方法と基準	【評価方法】 1）定期試験70%　2）授業態度20%　3）出席数10% 【評価基準】 1）定期試験は、各設問について、授業内での実施事項を踏まえ回答する。各設問ごとに点数を設け、合算して算出する。 2）授業態度は、授業参加姿勢や授業後の実践の取り組み状況、提出物の有無、内容を含む。						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習　時間外学習(学習課題)
1	4月17日	講義、演習	【オリエンテーション】自己スキルチェックで自己分析、課題発見ができる。クラス交流を図る	・授業終了時に立てた行動計画を実践する
2	4月24日	講義、演習	【チームワーク】グループの目的や役割を理解し、グループへの積極的な参加や連携ができる	・授業終了時に立てた行動計画を実践する
3	5月8日	講義、演習	【自己理解・他者理解】他者との交流を通して価値観の違いを理解できる	・授業終了時に立てた行動計画を実践する
4	5月15日	講義、演習	【自己理解・他者理解】自分と他者の価値観の違いを理解し、他者の価値観を尊重する	・授業終了時に立てた行動計画を実践する
5	5月22日	講義、演習	【チームワーク】グループの目的と個々の役割を理解し、グループワークに取り組むことができる	・授業終了時に立てた行動計画を実践する
6	6月5日	講義、演習	【基礎ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力】コミュニケーションの一歩となる挨拶と表情の意味が分かり、実践ができる	・授業終了時に立てた行動計画を実践する
7	6月19日	講義、演習	【基礎ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力】会話の成り立ちを、聴く/話すに分けて理解し、聴くポイントを実践できる	・授業終了時に立てた行動計画を実践する
8	6月26日	講義、演習	【基礎ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力】話すのポイントやコツを知り、実際に使うことができる	・授業終了時に立てた行動計画を実践する
9	7月3日	講義、演習	【基礎ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力】自己表現方法の種類を知り、適切な自己主張の方法を実践できる	・授業終了時に立てた行動計画を実践する
10	7月10日	講義、演習	【基礎ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力】頼み方、断り方、相談の仕方を知り、実際に使うことができる	・授業終了時に立てた行動計画を実践する
11	7月17日	講義、演習	【検定講義①】CSU検定に向け第1章・第2章のポイントを理解できる	・授業終了時に立てた行動計画を実践する
12	8月21日	講義、演習	【チームワーク】相手と自分を理解し、チームで同じ目標に向かい協働する要素を明確にする	・授業終了時に立てた行動計画を実践する
13	8月28日	講義、演習	【基礎ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力】事実や意見などを区別して、結論からわかりやすく伝える型を実践できる	・授業終了時に立てた行動計画を実践する
14	9月4日	試験	【前期試験】前期に学んだことを整理し、自分を振り返り、達成や課題を分析できる	・授業終了時に立てた行動計画を実践する
15	9月11日	講義、演習	【振り返り】前期試験結果と自己チェックを振返り、後期に向け目標を設定することができる	・授業終了時に立てた行動計画を実践する
準備学習　時間外学習				

【使用教科書・教材・参考書】

教科書「コミュニケーションスキルアップ検定」

科目名	ドッグトレーニング実習ＥＩ	必修選択	選択	年次	2	担当教員	中川慎悟
学科・ｺｰｽ	エコ・コミュニケーション科2年制（昼二）	授業形態	演習	総時間（単位）	60 2		
教員の略歴	TCAドッグトレーナー専攻卒、ドッグスクールOne'sWish代表						
授業の学習内容	ドッグトレーナーになるために必要不可欠な基本的な知識・技術・動作等を習得する授業です。 また、アジリティー競技を通じて、適切なトレーニング方法を学び、それを第三者に伝える知識と技術を学べます。 アジリティー競技のルールや犬への教え方、取り組み方を学び、自らの知識や技術を他者に的確に伝えることができるプロとなれるよう、学習してください。 授業は実習が中心ですが、資料を用いて犬及びトレーニングの基礎を学習します。 ※実際に生き物を使用する授業のため、内容に変更がある場合があります。						
到達目標	オビディエンスの基本的な動作（ツイテ、スワレ、フセ、コイ、マテ）を理解し、より高いレベルで実践する。 アジリティーのルール理解し、個体によって最適なトレーニングを行うことができる。 どの犬にも基本的なアジリティーを教えることができる。 実際に飼い主とコミュニケーションと取り、より現場に近い状況でアドバイスができる。						
評価方法と基準	通常授業の取組態度２０％ 定期試験ト８０％ 筆記試験評価：GPA（S100～90　A89～80　B79～70　C69～60　F59～0） 再試験は公欠が認められた者のみ対応する。 追試験1回　レポート課題（教材からの抜粋）を提示し、提出をもってCの評価とする。 取組態度は担当犬の課題達成度に応じて判断する。						

授業計画・内容				
回数		授業形態	学習内容	準備学習　時間外学習(学習課題)
1		演習	「アジリティーとは何か？」を理解し実践できる。	
2		演習	「アジリティーのルール」を理解する。 担当犬トレーニング	
3		演習	「ハードルの教え方」を理解し実践できる。 担当犬トレーニング	
4		演習	「トンネルの教え方」を理解し実践できる。 担当犬トレーニング	
5		演習	「Aフレームの教え方」を理解し実践できる。 担当犬トレーニング	
6		演習	「ドッグウォークの教え方」を理解し実践できる。	
7		演習	「ソフトトンネルの教え方」を理解し実践できる。	
8		演習	「スラロームの教え方」を理解し実践できる。	
9		演習	「タイヤの教え方」を理解し実践できる。 担当犬トレーニング	
10		演習	「レンカの教え方」を理解し実践できる。 担当犬トレーニング	
11		演習	「ロングジャンプの教え方」を理解し実践できる。	
12		演習	「複数のハードルの教え方」を理解し実践できる。	
13		演習	「ハードルとトンネルの組合せの教え方」を理解し実践できる。担当犬トレーニング	
14		試験	筆記試験、習熟度の確認 担当犬トレーニング	
15		講義・演習	テスト結果からの振り返り 前期授業の反省と後期への課題策定	
準備学習　時間外学習			飼育当番を通じて犬に対しての生態や習性について、より深い学びの展開を促す	

【使用教科書・教材・参考書】　オリジナルテキスト、トレーニング日誌、アジリティー機材

※許可をした時のみタブレット端末などでの検索、撮影等を可とする。

科目名	ドッグトレーニング実習EⅡ	必修選択	必修	年次	2	担当教員	中川慎悟
学科・コース	エコ・コミュニケーション科2年制（昼二）	授業形態	講義演習	総時間（単位）	60 2		
教員の略歴	TCAドッグトレーナー専攻卒、ドッグスクールOne'sWish代表						
授業の学習内容	ドッグトレーナーになるために必要不可欠な基本的な知識・技術・動作等を習得する授業です。 また、アジリティー競技を通じて、適切なトレーニング方法を学び、それを第三者に伝える知識と技術を学べます。 アジリティー競技のルールや犬への教え方、取り組み方を学び、自らの知識や技術を他者に的確に伝えることができるプロとなれるよう、学習してください。 授業は実習が中心ですが、資料を用いて犬及びトレーニングの基礎を学習します。 ※実際に生き物を使用する授業のため、内容に変更がある場合があります。						
到達目標	オビディエンスの基本的な動作（ツイテ、スワレ、フセ、コイ、マテ）を理解し、より高いレベルで実践する。 アジリティーのルール理解し、個体によって最適なトレーニングを行うことができる。 どの犬にも基本的なアジリティーを教えることができる。 実際に飼い主とコミュニケーションと取り、より現場に近い状況でアドバイスができる。						
評価方法と基準	通常授業の取組態度20% 定期試験ト80% 筆記試験評価：GPA（S100～90　A89～80　B79～70　C69～60　F59～0） 再試験は公欠が認められた者のみ対応する。 追試験1回　レポート課題（教材からの抜粋）を提示し、提出をもってCの評価とする。 取組態度は担当犬の課題達成度に応じて判断する。						

授業計画・内容				
回数		授業形態	学習内容	準備学習　時間外学習(学習課題)
1		演習	「アジリティーにおいての失敗」を理解する。	
2		演習	「アジリティーにおいての拒絶」を理解する。	
3		演習	「アジリティーにおいての失格」を理解する。	
4		演習	「ハンドリング」を理解し実践できる。 担当犬トレーニング	
5		演習	「バックスイッチ」を理解し実践できる。 担当犬トレーニング	
6		演習	「フロントスイッチ」を理解し実践できる。 担当犬トレーニング	
7		演習	「検分の仕方」を理解し実践できる。 担当犬トレーニング	
8		演習	「ハンドリングの応用」を理解し実践できる。	
9		演習	「ハンドリングの応用」を理解し実践できる。	
10		演習	「短いシークエンスの走り方」を理解し実践できる。	
11		演習	「短いシークエンスの走り方」を理解し実践できる。	
12		演習	「競技会を想定した状況」を理解し実践できる。	
13		演習	「競技会を想定した状況」を理解し実践できる。	
14		試験	筆記試験、習熟度の確認 担当犬トレーニング	
15		講義・演習	テスト結果からの振り返り	
準備学習　時間外学習			飼育当番を通じて犬に対しての生態や習性について、より深い学びの展開を促す	

【使用教科書・教材・参考書】　オリジナルテキスト、トレーニング日誌、アジリティー機材

※許可をした時のみタブレット端末などでの検索、撮影等を可とする。

科目名	ドッグトレーニング演習ＢＩ	必修選択	選択	年次	1	担当教員	中川慎悟
学科・ｺｰｽ	エコ・コミュニケーション科2年制（昼二）	授業形態	演習	総時間（単位）	60 2		
教員の略歴	TCAドッグトレーナー専攻卒、ドッグスクールOne'sWish代表						
授業の学習内容	ドッグトレーナーになるために必要不可欠な基本的な知識・技術・動作等を習得する授業です。 また、犬の行動原理や生態を理解し、適切なトレーニング方法を学び、それを第三者に伝える知識と技術を学べます。 より多くの犬（個体）をトレーニングし、自らの知識や技術を他者に的確に伝えることができるプロとなれるよう、学習してください。 授業は実習が中心ですが、資料を用いて犬及びトレーニングの基礎を学習します。 ※実際に生き物を使用する授業のため、内容に変更がある場合があります。						
到達目標	オビディエンスの基本的な動作（ツイテ、スワレ、フセ、コイ、マテ）を理解する。 犬種の特性を理解し、個体によって最適なトレーニングを行うことができる。 どの犬にも基本動作（ツイテ、スワレ、フセ、コイ、マテ）を教えることができる。 環境に合わせた飼育方法やトレーニングを提案できる。						
評価方法と基準	通常授業の取組態度２０％ 定期試験ト８０％ 筆記試験評価：GPA（S100～90　A89～80　B79～70　C69～60　F59～0） 再試験は公欠が認められた者のみ対応する。 追試験1回　レポート課題（教材からの抜粋）を提示し、提出をもってCの評価とする。 取組態度は担当犬の課題達成度に応じて判断する。						

授業計画・内容				
回数		授業形態	学習内容	準備学習　時間外学習(学習課題)
1		演習	リードの使い方、犬の安全な出し入れ、 担当犬トレーニング	
2		演習	基本動作（スワレ、フセ）、担当犬トレーニング	
3		演習	基本動作（ツイテ、コイ）、担当犬トレーニング	
4		演習	基本動作（各課目の熟練度UPと試験）、 担当犬トレーニング	
5		演習	基本動作（各課目の熟練度UPと試験）、 担当犬トレーニング	
6		演習	基本動作（各課目の熟練度UPと試験）、 担当犬トレーニング	
7		演習	基本動作（各課目の熟練度UPと試験）、 担当犬トレーニング	
8		演習	基本動作（各課目の熟練度UPと試験）、 担当犬トレーニング	
9		演習	基本動作（各課目の熟練度UPと試験）、 担当犬トレーニング	
10		演習	基本動作（各課目の熟練度UPと試験）、 担当犬トレーニング	
11		演習	基本動作（各課目の熟練度UPと試験）、 担当犬トレーニング	
12		演習	基本動作（各課目の熟練度UPと試験）、 担当犬トレーニング	
13		演習	基本動作（各課目の熟練度UPと試験）、 担当犬トレーニング	
14		試験	筆記試験、習熟度の確認 担当犬トレーニング	
15		講義・演習	テスト結果からの振り返り 前期授業の反省と後期への課題策定	
準備学習　時間外学習			飼育当番を通じて犬に対しての生態や習性について、より深い学びの展開を促す	

【使用教科書・教材・参考書】　トレーニング日誌

※許可をした時のみタブレット端末などでの検索、撮影等を可とする。